

令和5年度第3回 福知山市行政改革推進委員会

日 時：令和5年10月13日（金）
午前10時30分から
開催方法：オンライン開催

《 次 第 》

開会

1 報告事項

- (1) 令和5年度施策レビューの実施結果について
- (2) 行政改革大綱 2022-2026 進捗状況について
- (3) 外郭団体の点検・評価について

2 議事

施策レビューのふりかえりと今後の進め方について

閉会

【配布資料】

- | | |
|----------|--|
| 資料1 | 令和5年度施策レビュー（二次レビュー）実施概要 |
| 資料2-1～3 | 施策レビューアンケート結果集計表（施策改善市民パートナー、高校生及び傍聴者向け） |
| 資料3-1～16 | 施策レビュー（二次レビュー）改善提案等 |
| 資料4 | 行政改革大綱 2022-2026 令和4年度進捗状況 |
| 資料5 | 外郭団体の点検・評価の仕組みについて |
| 資料6 | 施策レビューのふりかえり |

令和5年度 施策レビュー（二次レビュー）実施概要

1. 実施日時： 7月22日（土）9：30～17：20
7月23日（日）9：05～17：10

2. 実施会場： 市民交流プラザふくちやま

3. 参加者人数

コーディネーター・施策改善推進委員	実人数 15名
施策改善市民パートナー	実人数 81名（延べ94名）
うち) 高校生	実人数 40名
傍聴者	延べ 59名

4. 令和5年度対象施策（事業）

基本政策	施策数	事業数
1 市民一人ひとりが、まちづくりの担い手となり、ほどよい力加減で助け合うまち	6	89
3 市民一人ひとりが、お互いを尊重しながら、ともに育み、ともに育つまち	3	49
5 市民一人ひとりが、その人なりの生きがいを持ち、健やかで活動的なまち	1	12
8 市民一人ひとりが、時代の変化を先取りし、地域産業の発展に貢献できるまち	7	115

※「まちづくり構想 福知山」に掲げる9つの基本政策60施策のうち

R4：10施策、R5：17施策（うち1施策再実施） 計26施策実施/2年間

5. 対象部署

部	課・室
市長公室（※）	経営戦略課、職員課、秘書広報課、大学政策課
地域振興部（※）	まちづくり推進課、三和支所、夜久野支所、大江支所、文化・スポーツ振興課
財務部	財政課
福祉保健部（※）	子ども政策室、社会福祉課、障害者福祉課、高齢者福祉課、地域包括ケア推進課
市民総務部（※）	総務課、デジタル政策推進課、市民課
産業政策部（※）	産業観光課、農政課、農林業振興課
建設交通部（※）	都市・交通課
市議会事務局	市議会事務局
農業委員会事務局	農業委員会事務局
監査委員事務局	監査委員事務局
教育委員会事務局	生涯学習課

（※）施策担当部：指標に関連する事業の所管部

6. 施策改善シート 結果概要

施策名	政策目標の実現に向けた施策の有効性			
	施策改善推進委員		市民パートナー	
	有効である	有効でない	有効である	有効でない
地域組織や地域活動の活性化★	2	2	15	7
地域課題の解決に向けた仕組みの構築	4	0	15	3
日常生活ニーズに応じた外出・訪問サービスの確保 持続可能な公共交通の制度設計・運営	0	4	7	2
良質な住宅ストックの形成と移住促進	4	0	17	0
関係人口としての福知山ファンの獲得★	2	2	12	8
偏見や差別のない多様性の尊重と理解促進★	0	4	7	10
人権を尊重した地域生活の確立	0	4	5	5
多文化共生とユニバーサル社会の推進	4	0	10	0
生活の質を高める文化・芸術活動の振興	2	2	3	10
既存企業の成長促進と中核企業の誘致・定着の促進	3	1	7	5
産官学金連携を通じた経営力の強化★	2	2	3	10
新産業の育成と起業支援の充実	1	3	4	9
商店街や個店の魅力向上支援★	0	4	2	24
市の特質を踏まえたキラリと光る観光戦略の推進★	0	4	4	16
スマート農林業及び稼げる農林業、環境にやさしい農林業の推進★	4	0	11	3
有害鳥獣対策の推進★	4	0	12	0

★高校生が参加した施策

アンケート結果(市民パートナー)

【資料2-1】

令和5年度 福知山市施策レビューに関するアンケート集計

参加者数	41名
アンケート回答数	41名
回答率	100.0%

1-① 性別		回答数	回答率
1	男	26	63%
2	女	14	34%
3	その他(未記入)	1	2%

1-② 年齢		回答数	回答率
1	10代	1	2%
2	20代	1	2%
3	30代	2	5%
4	40代	5	12%
5	50代	10	24%
6	60代	16	39%
7	70代以上	4	10%

※未記入2

1-③ 居住地		回答数	回答率
1	市内	41	100%
2	市外	0	0%

1-④ 職業		回答数	回答率
1	会社員	9	22%
2	自営業	6	15%
3	学生(高校生)	0	0%
4	学生(高校生以外)	1	2%
5	公務員	2	5%
6	その他	22	54%

※未記入1

【その他内訳】		
・教員(3)	・農業(1)	・専業主婦(2)
・無職(4)	・介護職(1)	・未記入(8)
・年金(2)	・パート非常勤(1)	

2. 施策担当部・課(職員)の説明は解りやすかったですか？

1	わかりやすかった	12	29%
2	概ねわかりやすかった	18	44%
3	少しわかりにくかった	8	20%
4	わかりにくかった	0	0%

※未記入3

【そう思われた理由・ご意見】

《わかりやすかった》

・施策について詳しく知らないことでも、冒頭に概要を述べていただいたので理解しやすかった。

《概ねわかりやすかった》

- ・具体的な数値等もあり、イメージしやすかった(わかりやすかった)。
- ・職員が自分の言葉で話してくれたほうがよい(事業説明が台本読み上げだったのは残念)。
- ・コーディネーターの方が聴きたいことが、返答されてないように思うところがありました。

《少しわかりにくかった》

- ・課題の設定と対応策が不一致に感じられました。
- ・どの資料を見ればよいのかわからないときがあった。
- ・どの資料をもとに説明しているのか示していただきたかった。

3. 施策レビューの1コマごとの意見整理・議論に係る時間配分はいかがでしたか？(複数回答可)

1	議論の時間が短かった	8	20%
2	議論の時間は適切だった	24	59%
3	議論の時間が長かった	0	0%
4	全体的に短かった	2	5%
5	全体的に適切な時間配分だった	11	27%
6	全体的に長かった	2	5%
7	その他	4	10%

【その他】

- ・改善シートが回収されるタイミングが早く感じた。意見をあまりかけなかった。
- ・必要な時間だと思いますが、議論の時間があまり有意義に思えなかった。
- ・感心のある議論にあっては、もっと聞いていたいものもあった。
- ・施策の内容によって、1つの内容の議論だけで終わってしまったり、適切な時間配分のものもあった。

4. 施策レビューの1日の流れはいかがでしたか？(複数回答可)

1	議論が活発で早く感じた	15	37%
2	資料がわかりやすく早く感じた	5	12%
3	議論が適度にあり時間配分が適切だった	19	46%
4	資料が十分にあり時間配分が適切だった	8	20%
5	議論が活発でなく長く感じた	0	0%
6	資料がわかりにくく長く感じた	5	12%
7	その他	3	7%

【その他】

- ・議論は活発で良かったが、資料が多すぎたように感じた。
- ・肝心の議論になかなかたどりつかず(返答が的を射ず)長く感じた。

5. 説明資料を事前配布しましたが、資料の読込みはできましたでしょうか。

1	できた	15	37%
2	できなかった	25	61%

※未記入1

【そう思われた理由・ご意見】

《できた》

- ・内容の確認はできたので、あとはその内容をどの様に説明されるかという感じでした。
- ・1週間近い余裕があって助かった(読み込めた・目を通すことができた)。
- ・目を通したが、内容は難しかった。

《できなかった》

- ・ボリュームが多くて、論点が分かりにくい。
- ・視覚的に見づらく、ボリュームに圧倒されました。
- ・量が多かったので、全て読み込むことはできなかった。

6. 説明資料のご感想をお聞かせください。(複数回答可)

1	資料の量が多かった	31	76%
2	資料の量は適量だった	5	12%
3	資料の量が少なかった	1	2%
4	資料が見にくかった	9	22%
5	資料は見やすかった	1	2%
6	その他	8	20%

【その他】

- ・作るのに時間がかかるわりには、難しくてわかりにくかった。
- ・見方に慣れるまで時間がかかった。
- ・施策レビューの間にも使われていない資料がほとんどだった。
- ・資料の字が小さく、細かすぎる(高齢者にはづらい)。
- ・内容が入りにくい感じがありました。

7. 今回の施策レビューはいかがでしたか？

1	参加してみてよかった	34	83%
2	施策改善推進委員だけでもよい	2	5%
3	どちらともいえない	4	10%

※未記入1

【そう思われた理由・ご意見】

《よかった》

- ・議論を聴く中で自分では考えの及ばない意見に多く触れられ、市の事業を理解できる場であるため。
- ・行政施策を直接聞ける機会は他市町村でも聞いたことがなく、とても有意義でした。
- ・施策改善推進委員の方の意見や視点が興味深く、参考になったから。
- ・福知山の課題と解決策について、主体的に考えることができた。
- ・重要な課題がたくさんあり、厳しい意見になったかも知れませんが、少しでも取り入れていただければと思っています。
- ・福知山市が考えている課題を肌で感じることができ、よかったです。
- ・自分自身で、問題課題は見つけにくいので、このような機会に福知山市についてより深く勉強できる。
- ・参加してみないと知らないままで、日々過ごしていたと思います。
- ・市の施策がよくわかり、市民としてすべき事等を考える時間になった。
- ・コーディネーターさんと市のやりとりがすごく参考になりました。
- ・施策推進委員の方は福知山市の実情にあまり詳しくない人が多い。むしろ我々パートナーの方が実情に合った提案をすることができ、委員の方より重要な役割を果たすことができるのでは。
- ・市の担当の方々の想いと、それに対する外部の意見を直に聞くことができ、どうしたら福知山がよりよく、住みやすいまちになるかを真剣に考えるキッカケができたと思う。

《施策改善推進委員だけでもよい》

・改善推進委員の質問が的確であった。

《どちらともいえない》

・数字での報告が少なかったため、進捗がわからなかった。

8. 今後、機会があれば「施策改善市民パートナー」としてご協力いただけますか？

1	協力したい	18	44%
2	内容によって協力したい	22	54%
3	やりたくない	0	0%

※未回答1

【そう思われた理由・ご意見】

《協力したい》

- ・毎年ではなく、数年後、今回のレビューがどうなっているのか知りたい。
- ・コーディネーター、推進委員、市職員との議論を聴くことで、市政への関心が高くもてるから。文字からは見えてこない“気づき”がある。
- ・施策作りの過程がよく分かるから。
- ・市の一員として、何か協力できたらと思います。
- ・このような機会を与えられ、意見を述べるチャンスは滅多にありません。少し厳しい意見も書きますが、少しでも施策にいかしていただければと思っています。

《内容によって協力したい》

- ・1日という長丁場でなければ参加したいと思いました。
- ・数値分析が無いので、コメントが難しい。
- ・他に意見箱でも充分かと思った。
- ・課題が多岐にわたるのでもう少し狭い分野であれば参加したいと思います。
- ・市の政策に意見や考えを言える機会はあまりないし、どんなことをしているのかが分かる場であると思ったから。
- ・もう少し市民の声も聴ける（発言できる）ような場があれば参加したいかなと思います。
- ・興味のあることであれば聞こうと思えるので。
- ・小さい子がいて時間的な縛りもあるため、内容によって参加を検討したいです。
- ・拘束される時間が長いので、今後は自分勝手ですが参加できる時間だけにしようと思います。自分達の生活に直結する内容はとても気になるので。

9. 施策レビューに何を期待されますか？（複数回答可）

1	市民への説明責任（市民参画の促進）	16	39%
2	客観的な指標に基づいた施策の進捗状況の見える化	25	61%
3	より効果的・効率的な地域課題の解決に向けた施策の取組内容の改善	28	68%
4	職員の意識改革	13	32%
5	その他	1	2%

【その他】

- ・市民が求めていることが政策に取り入れられているか見直す機会になること。

10. その他ご意見がありましたら自由にご記入ください

- ・様々な方の声が聞ける、聞くことは市民としても人としても必要なことの様に思いました。
- ・1つ1つをもっと時間をかけて聴きたかった。
- ・全体的に思ったことで、質問に対してのデータの分析、各分野のデータの把握が手薄な気がしました。外に出にくい分野であっても数字を掴む事は大事だと思いました。
- ・大変な仕事と思いますが、私たち市民は職員の皆さん方と、共に人生を歩む仲間です。これからもよろしく願います。
- ・思っていたより施策改善市民パートナーの参加が少ないと思いました。もう少し若い方も積極的に参加してもらえる対策をしていただければと思います。
- ・時間に限りがあるので、市担当者が施策改善推進委員の質問に対してスムーズに答えていただきたかったです。そのためには市職員が施策に関することの把握をもう少ししっかりしてほしいと感じました。
- ・市職員の方も福知山市民である方は多いと思います。行政の立場だけでなく、施策を立てると時に、一市民としての考え方も持ったうえで議論していただきたいです。
- ・長時間におよぶので、午前・午後単位や議題単位で参加できれば入口の敷居が低くなるのではないかと思います。説明資料が多いので、シンプルにしていただけると、より興味をもてると思います。
- ・こういった『市民が公的な場で意見をのべられる』取組をもっと推進してほしいです。事業評価シートについても、PDFという形で公開はされているので、もうちょっと告知宣伝してもよい気がします。
- ・現場分析が甘く、真の原因が明確になってない様に感じました(全て)。
- ・職員の発表時間がもう少し長くてもよかった。また、市役所内での一次レビューの内容報告が聞きたかった。
- ・市民パートナーは意見を述べる機会が改善シートの自由記載欄に記入する以外ないので、意見を述べる機会を設けて欲しい。
- ・改善シートがA3になっていますが、A4で○印は詰めて作成した方がよい。
- ・資料は事務事業評価シートだけで十分。よくまとめられている。
- ・パワーポイントを利用した紙の削減も必要。
- ・コーディネーター及び施策改善推進委員の質問は的確であった。
- ・60分という限られた時間で、施策体系シートの“一部”の事業についてのみの議論を聴いたのみで、施策全体のレビューとして判断を下すことがとても難しかったです。結果として否定的な判断となった施策でも、1つ1つの事業をしっかりと議論できていれば、異なった判断となった施策もあったように思います。今後の市政に期待しています。
- ・高校生だけでなく、公立大生など学生の参加が増えることを期待します。
- ・全体的に資料の量が多く、中には重複しているような内容もあり、レビューの説明中にどこの何をみたらいいのかが分かりにくく、担当者の話にしっかりと耳を傾けられない時があった。今回の内容はココ、などと説明を開始するときに言ってもらえたりすると色々な資料の内容を見回すことはなくなるかと思った。

アンケート結果(高校生)

【資料2-2】

令和5年度 福知山市施策レビューに関するアンケート集計

参加者数	40名
アンケート回答数	40名
回答率	100.0%

1-① 性別		回答数	回答率
1	男	17	43%
2	女	23	58%
3	その他(未記入)	0	0%

1-② 年齢		回答数	回答率
1	10代	40	100%
2	20代	0	0%
3	30代	0	0%
4	40代	0	0%
5	50代	0	0%
6	60代	0	0%
7	70代以上	0	0%

1-③ 居住地		回答数	回答率
1	市内	28	70%
2	市外	11	28%

(市外内訳) ※未記入1

・舞鶴市 5
・綾部市 6

1-④ 職業		回答数	回答率
1	会社員	0	0%
2	自営業	0	0%
3	学生(高校生)	40	100%
4	学生(高校生以外)	0	0%
5	公務員	0	0%
6	その他	0	0%

2. 施策担当部・課(職員)の説明は解りやすかったですか？

1	わかりやすかった	7	18%
2	概ねわかりやすかった	17	43%
3	少しわかりにくかった	14	35%
4	わかりにくかった	2	5%

【そう思われた理由・ご意見】

《わかりやすかった》

- ・福知山の現状の課題について細かく、分かりやすく説明されていたから。
- ・何について話すのか、高校生にも分かりやすかったから。
- ・どの資料を見たらよいのかなどの説明があったから。

《概ねわかりやすかった》

- ・説明用資料にグラフや図があり、分かりやすかった。
- ・印刷された図の画質が少し粗く、見辛かった。

《少しわかりにくかった》

- ・最初の説明でまとめてたくさん言われていたので、もう少し、課題を小分けにして話すともう少し良いと思う。
- ・資料の場所が少しわかりにくく、お話と資料をうまく使うことができなかったから。
- ・難しい言葉が多かった。ただその分、1つ1つの意見が濃くてよかったと思う。
- ・課題と解決策との関係性が分かりづらかった。

《わかりにくかった》

- ・具体的ではなかった。話している人本人も問題事体についてとらえきれてないのかなと感じた。

3. 施策レビューの1コマごとの意見整理・議論に係る時間配分はいかがでしたか？(複数回答可)

1	議論の時間が短かった	3	8%
2	議論の時間は適切だった	23	58%
3	議論の時間が長かった	0	0%
4	全体的に短かった	2	5%
5	全体的に適切な時間配分だった	17	43%
6	全体的に長かった	1	3%
7	その他	0	0%

4. 施策レビューの1日の流れはいかがでしたか？(複数回答可)

1	議論が活発で早く感じた	20	50%
2	資料がわかりやすく早く感じた	1	3%
3	議論が適度にあり時間配分が適切だった	12	30%
4	資料が十分にあり時間配分が適切だった	5	13%
5	議論が活発でなく長く感じた	2	5%
6	資料がわかりにくく長く感じた	2	5%
7	その他	1	3%

【その他】

- ・資料が多く、どこを話しているのか分かりにくかった。

5. 説明資料を事前配布しましたが、資料の読みはできましたでしょうか。

1	できた	22	55%
2	できなかった	18	45%

【そう思われた理由・ご意見】

《できた》

- ・一週間以上前から配られていて、読む時間が多かった。
- ・事前の説明会で資料の見方をとても丁寧に教えてくださった。
- ・資料がすごく見やすかったので、読み込むことができた。
- ・今ある課題、現状を理解できた。

《できなかった》

- ・かなり量が多かったため。
- ・勉強や部活、学校行事が忙しかったから。
- ・文章だけ読んでよく分からなかった。

6. 説明資料のご感想をお聞かせください。(複数回答可)

1	資料の量が多かった	15	38%
2	資料の量は適量だった	23	58%
3	資料の量が少なかった	0	0%
4	資料が見にくかった	6	15%
5	資料は見やすかった	11	28%
6	その他	0	0%

7. 今回の施策レビューはいかがでしたか？

1	参加してみてよかった	34	85%
2	施策改善推進委員だけでもよい	0	0%
3	どちらともいえない	5	13%

※未記入1

【そう思われた理由・ご意見】

《よかった》

- ・政策について市役所の方から直接聞けたり、色々な人の考えを聞けたので良かった。
- ・当事者だけでなく、第三者の意見も大切だと思ったから。
- ・今、市が何を考えているか、それに対する委員の皆さんのお話が活発で、市民として自分の考えが明確になった。
- ・課題解決には非常に難しいものがあるということを知ることができてよかったと思ったから。
- ・初めて知ったことがたくさんあったし、自分の意見を持てたから。
- ・自分の住んでいる地域に目を向けるいい機会になった。

《施策改善推進委員だけでもよい》

なし

《どちらともいえない》

- ・委員の方々だけで議論しているだけだったから。

8. 今後、機会があれば「施策改善市民パートナー」としてご協力いただけますか？

1	協力したい	8	20%
2	内容によって協力したい	31	78%
3	やりたくない	0	0%

※未記入1

【そう思われた理由・ご意見】

《協力したい》

- ・自分たちだけの考えでは思わなかったこともあって、考えの幅を広げることができるよい機会だと感じたからです。
- ・予算が政策など、本だけではわからないことも知ることができたので面白かったから。
- ・高校生の私たちだと、大人の方々とは考え方が違って、新たな意見・考え方・価値観が見い出せると思うので、市の方と協力して何か行っていきたくと思いました。
- ・議論を通してさらに福知山市の方々を地域活性化につなげていきたいし、貢献できる人材になりたいと思う。

《内容によって協力したい》

- ・自分が住む町のことから、自分事として考えを持ちたいと思ったから。
- ・私たちも福知山をより良くしたいと強く思っているで、協力したい。
- ・福知山独自の魅力をもっと増やしたいから。
- ・自分が興味があること(できること)であれば参加したいと思えたからです。
- ・話を聞いておもしろかったし、見方が変わった。
- ・自分自身も問題について考える良い機会になるから。

9. 施策レビューに何を期待されますか？(複数回答可)

1	市民への説明責任(市民参画の促進)	10	25%
2	客観的な指標に基づいた施策の進捗状況の見える化	19	48%
3	より効果的・効率的な地域課題の解決に向けた施策の取組内容の改善	29	73%
4	職員の意識改革	6	15%
5	その他	0	0%

10. その他ご意見がありましたら自由にご記入ください

- ・インスタやTikTokなどをもっと活用してほしい。
- ・高校生からインスタなどを活用して福知山を広めることに協力したいです。
- ・「これから取り組もうと考えている」といった、あやふやな受けばかりしていると、市をより良くしていくことにつながらないと思うので、なるべく具体的な受け答えで、できないところを明確にした方がよいと思います。
- ・学生の私たちの力だけでは、できないことも多く、学校の探究活動の中では限りが多く、十分に思っていることが行えないので、市の方と協力して事業を行いたいと思いました。
- ・ターゲットとする年代がある程度あった方が進めやすいと思った。
- ・もう少し分析したデータがあればよかったです。
- ・福知山市でされている取り組みを知ることができたので参加して良かったです。委員の方々の鋭い指摘に対して、なるほど、と思うことが多かったです。自分の思ったことも伝えられたので良かったです。福知山をよりよいまちにしていくには大事な時間だなと思いました。

アンケート結果(傍聴者)

【資料2-3】

令和5年度 福知山市施策レビューに関するアンケート集計

参加者数	59名
アンケート回答数	17名
回答率	28.8%

1-① 性別		回答数	回答率
1	男	13	76%
2	女	0	0%
3	未回答	4	24%

1-② 年齢		回答数	回答率
1	10代	0	0%
2	20代	1	6%
3	30代	6	35%
4	40代	2	12%
5	50代	4	24%
6	60代	2	12%
7	70代以上	2	12%

1-③ 居住地		回答数	回答率
1	市内	15	88%
2	市外	0	0%

※未回答2

1-④ 職業		回答数	回答率
1	会社員	1	6%
2	自営業	1	6%
3	議員	1	6%
4	学生	0	0%
5	公務員	10	59%
6	その他	4	24%

【その他内訳】

- ・無職(1)
- ・未記入(3)

1-⑤ 傍聴のきっかけ		回答数	回答率
1	ホームページ	3	18%
2	LINE	0	0%
3	新聞	0	0%
4	知人の紹介	4	24%
5	その他	8	47%

※未回答2

【その他内訳】

- ・職場(1)
- ・庁内掲示(1)
- ・未記入(6)

2. 説明資料は、解りやすかったですか？

1	わかりやすかった	2	12%
2	概ねわかりやすかった	10	59%
3	少しわかりにくかった	4	24%
4	わかりにくかった	1	6%

【そう思われた理由・ご意見】

《わかりやすかった》

・関心のあるテーマだったので傍聴してよかったです。

《概ねわかりやすかった》

・分類ごとにまとめてあり課題や目標が明確であったため。
・事業の説明なのでわかりやすく簡潔だった。

《少しわかりにくかった》

・資料がいくつかに分かれていて、それぞれが何の目的でいつ使うもののかなど説明またはその記述がなかった。当日資料P18に書いてあったがこのページは別にしてもよいかも。
・文字情報が非常に多い。説明を聞きながら読むのは難しい。

《わかりにくかった》

・字が小さい。議論のポイントと合致していない。

3. 傍聴いただいた施策担当部・課(職員)の説明は解りやすかったですか？

1	わかりやすかった	3	18%
2	概ねわかりやすかった	10	59%
3	少しわかりにくかった	3	18%
4	わかりにくかった	1	6%

【その他】

《わかりやすかった》

・行政職員として予備知識があったため。

《概ねわかりやすかった》

・進め方の問題もあり、市が何もしていない様な感じになってしまったが、説明はわかりやすい。
・確認事項(質問事項)への回答が不明確なものがあつたので検討が必要では。

《少しわかりにくかった》

・質問→回答がかみあわない場面が多い。

《わかりにくかった》

・質問者の問いに的確に答えられていない。観点がずれている。

4. 施策レビューの1コマごとの意見整理・議論に係る時間配分はいかがでしたか？(複数回答可)

1	議論の時間が短かった	3	18%
2	議論の時間は適切だった	9	53%
3	議論の時間が長かった	2	12%
4	全体的に短かった	0	0%
5	全体的に適切な時間配分だった	2	12%
6	全体的に長かった	0	0%
7	その他	2	12%

【その他】

・配分より一方的に行政が責められる進め方で、進め方に良い印象がない。
・端的な受け答えをして、Q&Aがどんどん進めば良いと思った。

5. 施策レビューの1日の流れはいかがでしたか？（複数回答可）

1	議論が活発で早く感じた	4	24%
2	資料がわかりやすく早く感じた	0	0%
3	議論が適度にあり時間配分が適切だった	7	41%
4	資料が十分にあり時間配分が適切だった	2	12%
5	議論が活発でなく長く感じた	2	12%
6	資料がわかりにくく長く感じた	1	6%
7	その他	4	24%

【その他】

- ・仕方ないかもしれませんが、前向きな話の進め方をもっとした方が良いと感じた。
コーディネーターの進め方に疑問。参加している学生は大人の議論を聞いて何をどう思うか大変疑問をもった。もっとこんなことしたら、こうしていこうという進め方ができないものか？
- ・議論が活発であったが長く感じた。
- ・表面的な議論に終始しており、もっと施策を深掘してほしかった。
- ・議論のポイントが見えてこなかった。

6. 今後も施策レビューを実施した方がよいと思われませんか。

1	実施した方がよい	8	47%
2	実施しない方がよい	2	12%
3	どちらともいえない	5	29%

※未回答2

【そう思われた理由・ご意見】

《実施した方がよい》

- ・市民の方の意見を直に聴けるため。
- ・市職員のPDCの良い機会になり、政策形成能力も向上するので市民のためになる。
- ・市民への情報発信になる。

《実施しない方がよい》

- ・もっと福知山市の為になる内容であれば良いが、実施したことにより良い面がわからない。
- ・議論になっていない。

《どちらともいえない》

- ・レビューの目的を達成できているか不明。
- ・職員が責められるように見える。しかし、高校生の意見はとても参考になる良い意見であった。
- ・短い時間のなかで施策の有効性の有無がわからないと思う。

7. 施策レビューに何を期待されますか？(複数回答可)

1	市民への説明責任(市民参画の促進)	7	41%
2	客観的な指標に基づいた施策の進捗状況の見える化	8	47%
3	より効果的・効率的な地域課題の解決に向けた施策の取組内容の改善	9	53%
4	職員の意識改革	3	18%
5	その他	2	12%

8. その他ご意見がありましたら自由にご記入ください

- ・本日は傍聴させていただきました。行政はもっと一般社会に目を向けてほしいです。このようなレビューがあること初めて知りました。参加できてよかったです。
- ・人権問題は非常に複雑な課題が多いと思いますが、今のところ具体的な現状把握ができていないように感じられた。
今がわからないと、どのように取り組みを進めたら良いか分からず、目的が中途になっているのではないかと感じた。
アンケートだけでなく、現状把握を図る手法があれば取り組みもより良くなると思う。
- ・今回の議論の内容は、今回無関係であった市職員にもしっかり伝わるようにしていただきたい(結果だけでなく)。
- ・初めて参加して何のための会か全くわからなかった。
元々観光地でない地を将来の主の一つとして「観光」を頑張っていこうという姿勢をみんなで持ち、進められたらと感じた。
参加側と行政側で事前にもっとやっているということの理解がないと、こういう議論結果になると思う。

基本政策：市民一人ひとりが、まちづくりの担い手となり、ほどよい力加減で助け合うまち

政策目標：協働・共創のまちづくり基盤の整備

施策名：1-1-1 地域組織や地域活動の活性化

担当部：地域振興部

改善シート項目	議論結果							
	施策改善推進委員挙手数			施策改善市民パートナー				
I 政策目標の実現に向けた施策の取組について	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない		
課題が明確になっているか	3	1	0	11	11	1		
取組の方向性は合っているか	0	4	0	8	13	2		
施策を構成する事業の重点付けができていないか	0	3	1	7	14	1		
II 施策の有効性について	1 有効である		2 有効でない		1 有効である		2 有効でない	
政策目標の実現に向けた施策の有効性	2		2		15		7	

※未回答1名

No.	所属	主 な 指 摘 事 項 、 改 善 提 案 な ど
1	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり講座などの啓発事業の実施や地域づくり組織の設立を検討する以前に、取り組むべき課題があると思われる。 ・現状の組織の活性化のために予算を使用すべきで、住民自治の観点から自治会のアンケートや要望に対して助成金を支出していくべきと考える。
2	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会の活動が膠着しがちな状況の中で、若い世代や女性が参加できる新たな組織を作り地域社会の活性化を図ることは意義はある。一方で人口が減少しているなかで、多くの組織を回していくことは難しい面もあるため、集約や地域間連携による効率化が必要である。
3	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> ・若者や女性などが参画してもらえらるための場所作りを市が積極的に関わっていくことが必要ではないか。 ・自治会はこうあるべき、今までこうだったという様な考え方の硬直化を変えていくことも重要ではないか。 ・課題解決の方向性が定まっている様でぼやけている気がした。
4	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「まちづくり組織」は住民として必要不可欠なものであると住民の方に気付いてもらうようPRし、より多くの人に働きかけてほしい。 ・組織を増やす前に業務の棚卸をまずやるべき。その次に担う方の選出を固定化しないようにしてほしい。負担のあるものでも必要なものもある。 ・そうは言っても自治なので行政がこうあるべき（あるいは国の方針が出たから）、このやり方にしたいと決めていくのはやめて、声を聴き対話してから決めるべきと思った。
5	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向けた取組の議論だとわかってはいるが、これまでの取組についても聞いてみたかった。 ・また、課題は明確に分かっているのに、具体的な取組が広報だけではもったいないと感じた。
6	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・改善のためにすべきことをもっと具体的に地域の人に示すことが大切だと思った。地域の人は現状をまだ理解していないと思う。
7	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・現状、自分が住んでいる地域でも自治会があり、組に分けられているが、高校生の自分が把握している活動としては草ひきやごみステーションの管理などでマンネリ化というか活発だとは言えないと思う。 ・議論のなかであった災害に関しての活動はないと感じている。コロナ以前は地域の祭りがあり若い人たちも協力していることもあったが現在は何もない。 ・現状、高校生の自分たち若い世代が参画していくにはどうすればいいかわからないし、どうアクションを起こせばいいかわからないため、自治会の方から呼びかけてほしい。若い世代に目を向けた政策がほしい
8	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・何かを変えようとする上での世代がうるさいイメージを感じる。市や府等の行政機関が上の世代を説得すればもっとよりよくなると思う。 ・自分の地域は人口が少なく高齢者も多いため取組を減らしていくのはいい案だと思った。 ・やる気のある人が移住してこない意味がないと思う。 ・小学校が合併したところはどうしたらいいのか。
9	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手不足の問題を解決することは地域活動の活性化にもつながると思うが、私の地域では住民の人数は増えているにも関わらず地域全体の活動は自分が幼少の頃に比べかなり減っている。これは担い手不足が原因ではなく、誰が担うのかというのが原因だと思った。そのため、地域活動の縮小は必ずしも担い手不足だけが原因でないと思った。

No.	所 属	主 な 指 摘 事 項 、 改 善 提 案 な ど
10	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・明確な課題が洗い出されていないように思った。 ・若い人・女性などの意見をあまり聞く機会がないということであったが。子育て世代の女性等は時間・心理的にも敷居が高いと思うので、時間的にも短くもっと気楽に話し合える場（年代ごとに少人数のコミュニケーションの場）があれば良いと思った。 ・自治会の業務を把握はできていないが、無駄な業務の見直しは必要かと思った。 ・地域活動の活性化が目的であるならば、自治会にこだわる必要はないかと思った。
11	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会の担い手（役員）が自治会の住民なのか把握されているのか？地域以外の人や市民以外（他府県民）の人もいるのか。 ・毛原地区の様に。ボランティア活動を利用して草刈り活動をもっと拡大してはどうか。 ・市街地に住み、通い消防団となっているが、本当に災害時に活動できるのか。
12	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・地域づくり組織支援により住民ボランティアによる地域内の活性化が図られていることはすばらしい。地域住民の意識の醸成ができています。成功体験が広がれば良いと思う。 ・地域づくり協議会と自治会の役割分担が必要。自治会は最低限何をするべきなのか、災害時の支援、防災等、私の住む地域は夏祭りや運動会は別組織が行っている。 ・子育てが終わり習い事やPTAが終了した女性は、人とのつながりが薄れることを残念に思っている人は多い。「ほどよい距離感」で参加したい人はいるのではないかな。 ・地域へのアプローチは、庁内で統一されているのか？生活支援体制整備事業等、協議会へのアプローチ（窓口）が同じなのかと思ったため。 ・福知山市は高校生の活躍の場を作るのがうまい。是非、住みたい、戻りたい福知山への提言を。
13	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会によってやり方が違うと思うので、色々な自治会の現状を知りたい。
14	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・今回、参加し市の地域に対する思いも理解出来た。自治会への参加が私自身出来ておらず今後目を見て行けたらと思う。
15	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・公的な立場の中で取り組むことはやはり限界があるように感じた。その限界以上に風穴を開ける為にどうするのか？様々な方の意見や方向性を聞きながらではあってもある程度の所で止まっているように思う。 ・手の届きにくい所にも行き届いているのか？不安になる。
16	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の同じ様な状況の自治体と比べて、良い所とそうでない所を調べて、良い所は参考にするといいと思う。同じ事が出来るのなら、同じようにしてもいいと思う。
17	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会の場合は各世帯では高齢者が代表になっておられて、若い方の意見を聞くことがないことが多い。
18	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・広報ふくちやまもあまり読んでいない方もいる。役員にならないと行動を行わない人も多くいると思う。自治会を脱会された方もいるし組の交流もなかなかできていない所もある。もっと仲良く交流するところから、近所で仲良くするところから始めていく事が大切。 ・老人会は頑張っていると思う。地域協議会も頑張っている。交流をする場所が大切。
19	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・私自身が特別自治会等に参加していないため、とても興味深く議論を聞かせてもらった。既にやっているかもしれないが、自治会が参加して議論を交わす（今回の様なコーディネーターを入れて）場を設けると、小さな課題等をはき出し、自治会の仕事の「いる」「いない」の共通認識もでき、「やめる」事もできるのでないか。
20	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会長へのアンケートから、現状の課題・未来の課題の分析から具体的現状改善策が生み出されていない感がある。 ・担い手不足は多くの要因が考えらる。地域内での人的交流対策が最も大事。「交流の場づくり」「伝達対策→意識改革」「文化、伝統の維持継続化」「子育て世代の交流アップ」「居住者安心度アップ」「文化・スポーツ交流の増大」が必要。
21	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・各自治会の会長からの問題について、市として話は聞くが具体的にはっきりと解決策を出している様子は無く、他の自治会の事例を紹介する程度では問題解決になっていない。 ・自治会の中の役員になる人が少なくなっているため、同じ人達ばかりが長年やっていると、新しい意見が生まれて来ない原因になっている。風通しが悪い。単純に問題提起をしてみてもどうか？例えば若い世代（学生含）の参加も考えてみる。ネット、ライン等の活用で風通しも良くなるのではないかな？広報誌の発行のやり方も考えてみては？デジタル世代にも興味を持ってもらえるやり方はどうか？ ・会計が大変だから役員になれる人が少ない。PCに強い世代（若い人）に協力してもらい、誰もがわかりやすいやり方を考えてみたら、役員の負担が減るのではないかな。
22	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世帯の自治体の加入率を上げるための取組として、若い世帯が自治体に入るメリットを知っている人が少ないと思う。
23	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の自治会と地域組織の現状分析（範囲、目的、実際の活動実態等）の分析が不十分。 ・自治会長等に広報等を配布するだけでは、情報伝達が不十分（あまり文字は読まない）。 ・自主的な組織の自治会と市が体系的にまとめることができる組織との役割分担を明確にしておくべき。
24	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会や公民館などの担い手が少なくなるなかまちづくりの活性化の活動も重要であるが、旧三町を中心に自治会の数が多すぎる。スモールなまちづくりを目指すべきである。 ・私のよく知っている旧夜久野は自治会の数が多すぎる。現状の1/3程度でよいであろう。半強制的に住民を移動させるなど、ある程度まとめることも必要であろう。 ・公民館の役員などもなり手が少なく、旧大江町、旧三和町では休館中の公民館もある。地域公民館と地区公民館の再編を旧三町などでは必要であろう。地域づくり協議会に自治会や公民館などをまとめるべきでは。 ・現在は地域活性する活動には重点が置かれているが、構造的な改革が必要である。施策改善推進委員は福知山市の実情に詳しくなくピンボケの質問が多い。くわしい人を入れるべきであろう。
25	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会には組長がまわってきたのでこの3月まで関わった。今は、大江高校で臨時教員をしており、地域創生科のカリキュラムの授業もしている。 ・人手不足、特定の人に負担加重、業務改善がなされず、前年からやっていたからとズルズル。これは学校現場も地域課題と共通しているなど感じた。 ・推進委員がおっしゃっていたことは同感である。担当制も大事な時はあるが助け合いも大事。若者や女性には自治会はこんなことをしているというアピール、意見を取り上げられるような目安箱制度、業務を精査・細分化して、その1つを縦割り以外に横の連携として依頼して、それをしてよかったと思わせるようなものがあるといいと思った。 ・しかし、「組織が何をやってるのかわからない」「負担が多すぎる」「物価上昇で苦しい」「税金が高すぎる」「ゴミ袋が高すぎる。」「時間がない」「余計なことには関わりたくない」「言っても改善させれない」、それが今の現状なので気持ちや経済的余裕があれば変わるので、ヒントにして取り組んでみてはどうか。

基本政策：市民一人ひとりが、まちづくりの担い手となり、ほどよい力加減で助け合うまち

政策目標：協働・共創のまちづくり基盤の整備

施策名：1-1-2 地域課題の解決に向けた仕組みの構築

担当部：地域振興部

改善シート項目	議論結果							
	施策改善推進委員挙手数			施策改善市民パートナー				
I 政策目標の実現に向けた施策の取組について	1 そう思う	2 どちらとも いえない	3 そう思わない	1 そう思う	2 どちらとも いえない	3 そう思わない		
課題が明確になっているか	2	2	0	7	9	2		
取組の方向性は合っているか	1	3	0	5	13	0		
施策を構成する事業の重点付けが できているか	2	2	0	3	14	1		
II 施策の有効性について	1 有効である		2 有効でない		1 有効である		2 有効でない	
政策目標の実現に向けた 施策の有効性	4		0		15		3	

No.	所属	主な指摘事項、改善提案など
1	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ハブとしての役割を担うとのことであったが、ハブとしての役割を自分で自分にあてはめようとしている風に見える。 ・受け身ではなく、積極的な発信も必要では。
2	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> ・行政として、団体活動の支援をすべき背景を整理したほうがよいのではないかと考えている。その上で、行政の役割を明確にし、場の提供、資金援助、インキュベート、持続。情報提供、他団体の活動情報の提供も大事。紙だけでなくネットも使って。 ・自主活動なので、邪魔しない程度に支援してほしい。
3	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市サイドから積極的にNPO団体等への働きかけを行っていくべきである。受け身で助成金等を支給することは効果測定が必要と思われる。 ・政策目標を達成するための社会福祉協議会の果たすべき役割を明確にすべきと考える。
4	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な事業で様々な取組をされていると思うが、具体的な取組や効果が市民に共有されないと発展していかないように思う。情報発信をして、より多くの市民を巻き込んでいく工夫をされるとよいと思った。
5	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に分かりづらいと思った。しかし必要なことではあると思う。 ・いじめの根絶はとても大事である。「教育のまち福知山」を掲げているのにいじめは多いと伺っている。 ・人と人の関わりが希薄になっている世の中でまちの中の人々が温かく見守れるまちになれば良いのと思うばかりである。 ・その温かいまちがそのまままちづくりに反映していくことが自然の流れのように思う。
6	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域、団体が課題とするものを市として整理し、課題解決のための事業を打てれば、この施策の効果になると思った。 ・提案型公共サービスの提案の規模や成果のハードルが低ければ、市民からおもしろいアイデアが引き出せるのではないのでしょうか。
7	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの方向性である活動を増やすことについて情報の共有ができていない部分がある。
8	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・事業を始めるための壁を様々な取組で低くしているのは理解できた。その後のサポートやそれがまちの活性化にどのようにつながっていくのかが不透明だった。 ・事業を始めたその後の成果や課題について情報共有を活発にすると、その後続く団体も増え、新しい事業を始める団体も増えていくのではないかと考える。
9	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・提案型公共サービスの説明や課題感は分かりやすかった。大きい課題ではなくマイノリティな小さい課題に対しても取り組んでいただければ良いと思った。
10	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO・団体等だけではなく、市民や市外の市出身者に意見も聞けば良い方向に行くと思う。
11	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・色々と活動はしているが情報の共有が出来ていない。
12	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・過疎地域におけるNPOや各種市民団体の活動状況は不明確である。 ・議員へのタブレットの導入とこの政策の関係が不明である。
13	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標と問題解決後の満足感が一致していないように感じる。（まちづくり活動に関係した人の数は確かに増えるかもしれないが…。） ・資金援助も含めて、幅広い活動をしているので、問題解決実績（成功体験）の情報をタイムリーに伝えて、活動の広がりを図って欲しい。（これも大切な情報共有） ・多くの解決すべき課題を一つにまとめているので、取り組むべき方向性も多くなるはずだが、方向性の記述が簡略すぎて不十分な項目があるように思う。

No.	所 属	主 な 指 摘 事 項 、 改 善 提 案 な ど
14	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> 市、行政としての役割の立ち位置がはっきりしていない部分があるように思う。ハブ又はプラットホームの役割の部分がわかりにくい気がする。 まちづくりとしての果たしている内容がわかりにくいので、風通しを良くする方向と、市民への情報発信と共有の在り方が末端まで行き届くと良い。 問題・課題の部分で、具体的に明確にしていってもよいのではないか？例えば、地域住民センターの場所や使用できる範囲がわかりにくい。 資金提供（補助金予算）がちょっとわかりにくい。どういう方向性のテーマ（事業）に有効なのか？
15	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> 市やNPO法人が具体的に何をしているのかわからない。体系シートや補足資料を見てもよくわからない。花壇の看板に団体名を見かけたり、社会福祉協議会に用事で行ったことはある。 地図でこの地域でこういうことをやっている、活動の一覧表（時系列やジャンル別に分けたもの）、活動状況を写真と説明文でHPやSNSにアップする。ポスターにして掲示、情報をまとめ発信すると市民に伝わる。 せっかく税金で取組をされているならばアピールすることで新たな団体の応募もあるのではないか。 この施策レビューは、そういう具体的な団体名、ジャンル分けによる活動内容がシートにあると有意義になったと思う。そうすれば、困り感、市への新たな提案はでる。風通しを良くすることで市側の求めたいことは得られるのではないかと。
16	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> 有効性については全面的ではなく部分的である。各ボランティアの継続性が行政との協働・共創感が少し感じられない。 同じ方向を向いて活動する場合、行政側のコーディネート力が重要である。課題に対して相手のあるキャッチボール体制が必要である。
17	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> 事業活動を明確し一歩前進する様に。
18	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> 住宅土地統計事業を実施しているので、福知山市で最も重要な課題は空家や耕作放棄地の山林をどうするかであろう。 旧三町に実家があり日新学区や京阪神などに住んでいる人はみんな困っている。 空き家バンクでは地区別の数が知りたい。このまま放置しているととんでもない問題になるであろう。早急に林業従事者を育成したり、農業法人などをつくるべきであろう。 ただし、山間部では大型の農機具が入らないので公園をつくるとか別の対策が必要である。 自主的にランドゴルフ、ラジオ体操、子ども食堂、登下校での見守り活動など積極的に活動は行われている。
19	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> 官民一体となり課題解決に向けた取組はとてもよいと思う。市民で出来ない事が市と取り組むことで可能となり、市の気づきにもなっていると思った。具体例がなく実感としてわからない部分もあるが、継続した取組みを望む。良い具体例があれば聞きたい。

基本政策：市民一人ひとりが、まちづくりの担い手となり、ほどよい力加減で助け合うまち

政策目標：持続性のある移動手段の確保

施策名：1-2-1 日常生活ニーズに応じた外出・訪問サービスの確保

1-2-2 持続可能な公共交通の制度設計・運営

担当部：建設交通部、福祉保健部

改善シート項目	議論結果							
	施策改善推進委員挙手数			施策改善市民パートナー				
I 政策目標の実現に向けた施策の取組について	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない		
課題が明確になっているか	0	4	0	1	6	2		
取組の方向性は合っているか	0	4	0	2	4	3		
施策を構成する事業の重点付けができていないか	0	3	1	2	5	2		
II 施策の有効性について	1 有効である		2 有効でない		1 有効である		2 有効でない	
政策目標の実現に向けた施策の有効性	0		4		7		2	

No.	所属	主な指摘事項、改善提案など
1	推進委員	・課題認識は仮説が多く課題の設定が一般的であるため、本当のニーズを明らかにする必要がある。調査のやり方、分析の仕方、仮設のたて方を再考する必要がある。
2	推進委員	・バスの運転手確保(人材育成) ・公共交通、代替交通どちらも具体的な困り事やニーズは何か。
3	推進委員	・そもそもニーズ把握の捉え方が違うのではないか。 ・何度も「誰がどこへ何時に」を聴いても明確な回答ないため、これがわからず手段だけ増やし実験をやっていくのはどうなのか。 ・困っている方のニーズは具体的にあるが交通政策とリンクしていない。
4	推進委員	・持続性のある移動手段に対して、「維持」が目的化し移動困難所、バス利用者の移動ニーズの把握や分析(エリア、時間帯、移送先、年代別)が不足。 ・利用率の向上につながるサービスもあるのにどうして向上しないのかという課題のとらえ方が弱い。 ・ICOCA普及拡大事業は事業名が誤解を招いている。単年度事業であるということ、全国旅行支援の一環ならば「コロナ禍における公共交通促進及び産業振興」ではないか。JR西日本のための税(事業)ですか？
5	市民パートナー	・マイカーを使うことが可能な年代でも突然のアクシデント(事故、病気等)でそれが不可能になる経験からどのような移動サービスを使えば自分の生活を安定させられるか、ベストでなくともベターな方法があるか、相談できる窓口が市役所にあるという安心感は大きい。 ・公共交通の減便など、個人として完璧な満足でなくても様々な方法を組み合わせることで生活のニーズに沿った外出、訪問サービスを提案してもらう中で、利用者として実際に行動し、試行錯誤しながら施策がより良いものになっていくものと思った。 ・市は提案やアドバイスだけではなく、相互作用としての気づきや学びをとり入れることが施策にとって不可欠であると感じた。 ・公共交通の減便も必要に応じて納得して受け入れられる様、利用者と運行者の双方が現状を知り合う機会(不満を言うのではなく、より良い未来の設計に協力する気持ちを育てる場)をつくって欲しいと思う。
6	市民パートナー	・課題がはっきりしているので施策もやりやすいのではないか。 ・高齢者や障害の方に乗り合いタクシー等の施策が実施されればよい。 ・利用者が2,3人になった場合は自治会の合併存続の件もあるので、移住を勧める施策も必要ではないか。
7	市民パートナー	・市が今後同じように支援していくことは難しいなか有償運送事業をされていることはいいことだと思う。ここから地域の課題が集約できれば次の施策もあるのかと思う。 ・既存のものを利用していくという点では、全国ではデイスサービス等の車両を共同運行サービスをして車を使わない時間帯には市民の病院や買い物等の移動サービスに使うこともされている。 ・運転者の高齢化や不足、財源の確保から既存のものの有効活用が重要だであると思った。移動しなくても生活ができる地域のために市民としてもできることを考えていきたい。
8	市民パートナー	・路線バスが年々本数も少なくなり希望する時間にバスが来なくなると、家族等に送迎してもらう事が多くなると思う。 ・市のニーズと市民のニーズが合っていない。チケット出すから良いだろうということではなく、きめ細かな対応が必要であり、市民の思いが届く行政であって欲しいと思う。 ・例えば、個人経営の散髪屋さんが出張としてある地域へ行くと1日6人から8人来られる。わざわざ行かなくても来てもらい助かると喜んでいる。これはお互いの思いのニーズが合っているから成り立っているのだと思う。

No.	所 属	主 な 指 摘 事 項 、 改 善 提 案 な ど
9	市民パートナー	施策は幅が広く大変むずかしい。問題はあと思う。
10	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施策改善委員が数的根拠を求められたが、市の説明では十分に答えられなかった。 ・ 平均乗車密度0人台路線の市バス運行は代替でかまわないと考える。もちろんその場合は何らかの代替交通手段が必要と思う。乗り合いタクシーの導入等、先手先手で市バス代替を柔軟に切りかえていってはどうか。 ・ 施策改善推進委員が言われていたように「ダメになるのを待つ」のは税金用途上もムダが生じる。何か新しい施策をたててほしい。 ・ ニーズの統計値的な裏付け必要。何人、どこの地域、時刻のデータがないのはまずい、地域ごとのデータが必要。 ・ 大型車両の減便を求めるのではなく小型車両への切りかえなどの運行方法の変更をするためのデータがほしい。 ・ データ集積から分析→方針立案→施策→実施→検証→データ集積の流れが必要。
11	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本当に必要な人への金銭面の支援は、バス停までなのか、それともドアツードア迄の100%支援なのか？ ・ 市バスの運行は民間バスの走っていない路線及び穴が開いている部分を埋めるだけで良いのでは？ ・ 行政サービスを各役所の窓口だけでは無く、オンライン化を利用しつつ各地域の小中学校まで出向いてサービスを受けられたら良いと思う。地域コミュニティセンターだけでは無く、細かく回ってもらえると利用者としてはうれしい。 ・ 移動手段の1つとして、病院へ行く時にスクールバスを一般の人でも利用できたら便利だと思う。
12	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 色々な移動サービスがある事は良いと思った。 ・ 利用者がもっと利用したいと思える様、今後も意見を聴いてほしいと思う。
13	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施策改善推進委員の指摘のとおり必要な細かい数値の把握ができていないように思う。 ・ 全員のニーズに応えることが理想ではあるが、現状の取組では、目標だけで終わり何ひとつ実行されないまま施策倒れになりそうである。 ・ 乗合バスから乗合タクシーに変換された場合、申込みが必要となるが、インターネットが使えない人や耳が悪く電話ができない人等の申し込みが困難な人への対応は考えているか？ ・ 声をあげられない方の声を拾う方法を考え、現状把握し本当に必要な事業にしていきたい。

基本政策：市民一人ひとりが、まちづくりの担い手となり、ほどよい力加減で助け合うまち

政策目標：地域に参画する新たな担い手の拡充

施策名：1-3-1 良質な住宅ストックの形成と移住促進

担当部：地域振興部

改善シート項目	議論結果							
	施策改善推進委員挙手数			施策改善市民パートナー				
I 政策目標の実現に向けた施策の取組について	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない		
課題が明確になっているか	3	1	0	15	2	0		
取組の方向性は合っているか	3	1	0	15	2	0		
施策を構成する事業の重点付けができていますか	1	3	0	13	4	0		
II 施策の有効性について	1 有効である		2 有効でない		1 有効である		2 有効でない	
政策目標の実現に向けた施策の有効性	4		0		17		0	

No.	所属	主な指摘事項、改善提案など
1	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> お試し、Uターンプラザ、定住住宅の違いが明確にはなっていない。税投入も相当あり税公平性の観点から同程度のサービスにしたらどうか。 担い手を目的とするなら、それが達成できるか否か分かれる指標を出してほしかった。 情報提供をもっと充実させたらどうか。動画配信をもっと行う。移住サイトを活用していても市のホームページからはアクセスしにくい。
2	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> 大江3割と少ないのはなぜか三和のように高い水準で持っていけないか。 より多くの方が登録していくように広報を充実させていくとよいのではないか。
3	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> 今後、空き家バンクに登録されていない空き家を登録につなげていく工夫が必要になる。民間との連携や賃貸の可能性を広げる等、事業を拡大する可能性を考えてもよいと思った。
4	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> 福知山市の特徴やメリットを明確にして効率的に移住促進を進めていくべきと考える。 生活環境の整備と総合的に連携を取りながら移住促進を図ってほしい（子育て、労働、交通等）
5	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> 私は、府外から夫の転勤で引っ越してきた。1か月前に転勤を言われたので、ネットで探した。今、福知山に住んで4年目だが、空き家バンク制度をこの施策レビューで初めて知った。民間物件は3月頃はとても少ないのもっとアピールすると思う。 京都（府内）の間取りは、他地域と比べて狭いので一軒家がいいが、費用が高く驚いた。 仕事も市で募集されるといいかもしれない。お試し住宅の件は聞いていたが、よくわからなかった。つまり市外から来られる人はわかりにくいと思う。 今回の施策レビュー同様、取組をわかりやすく伝える機会があればよいと思う。 数字データによる事実関係の把握をされているのはよかった。 賃貸があり驚いた。知りたかった。
6	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> 3町の住宅のみ利用せず、旧市内でもたくさんの空き家が近所にもたくさんある。
7	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> 空き家バンク募集時にテーマは具体的になっているのか。単純に人口増だけにとどまることなく農村産業活性化に特化・従事者増もはっきりと発信できているのか。 各自治会からの要請に行政として具体的に（法律的に）動いているのではないのでしょうか。アドバイス等について手助けをしているのか。 各自治会の団体の行っている事業内容を具体的に提示できているのか？（自治会費、参加事業（必須）・活動への理解推進） 移住者世帯、お試し住宅利用世帯への減免及び減税措置制度は風通しはよいか。一般市民でも理解できる制度なのか。
8	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> 昨今の働き方や田舎暮らしの考え方等から空き家活用はすごく身近なものになってきていると感じているが、なかなか定住までは難しいと感じている。 京都府の中でも福知山は、住みたいまちランキングも高く、魅力ある街と思う。
9	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> 空き家バンク対象物件の古民家的な物件（S56年5月31日以前の建築物）の耐震化への改修補助金の充実。 農村部の空き家の低額譲渡の税控除の啓発が必要である。 制度活用の啓発要

No.	所 属	主 な 指 摘 事 項 、 改 善 提 案 な ど
10	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家バンク登録者数は伸びているとのことだが、コロナが収まりテレワークが減少した後の登録者数は気になった。 ・移住者は関西件がほとんどとのことだが、関東から引っ越してきたが、関東圏ではあまり福知山市について知られてないのかと思った。
11	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・1年進むごとに家は朽ちていくので早い対応や決断が必要だと思う。
12	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・年々、空き家が気になるところである。移住者受け入れ態勢も進んでいることを感じている。
13	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・市内で不足している職種へのマッチングはあるか？少子高齢化が進み、生産年齢人口が減少する中で必要な職種への就職につながればいいと思う。 ・これらの施策について、農山村部以外の地域の住民もよく知り市全体の意識が変わればいいと思う。 ・移住者から見た福知山の良いところ等の広報がますます進めば市民の市への思いや関心も変わるかもしれない。
14	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・移住者と住民とのトラブルがあった場合の対処法は？ ・空き家の賃貸制度はあるのか？→あるよ。
15	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家見学される人に、農家民泊を紹介するとともに、補助金を農家民泊に活用できないか。 ・空き家見学ツアーの開催。
16	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な諸事情で転出される移住者もいると思うが、移住者を増やすために今まで通り続けてほしい。
18	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において地方に移住する機会が増えたことで、今後もニーズが増えると思うので空き家バンクのシステムを周知することが重要だと思う。
19	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手の確保を兼ねており過疎化を防ぐ手段として有意義な施策と考えるため、積極的に進めていただきたい。 ・市が住居や働く場所を用意することを進める策もあるのではないか。 ・過疎になる場所に関係する人がそのまま福知山ファンに登録する仕組みであれば、空き家や農地の確保も容易になると思う。 ・教育の観点から考えると、過疎地に若い人を招くのはかなりハードルが高い。今の担い手はできても将来の担い手は増えないと思う。
20	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・この件に関しては明確であった。人口が増えるというのはうれしい。移住者は地元になじんでくださるとよいね。
21	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家物件を増やすためには、空き家の跡片付けを積極的に促していくことが大切である。市が行うことは難しいので自治会の中の組長が相続者に片付けを行うよう助言していくことが大切である。 ・南陵学区や日新学区などでは空き家はすぐに売れるが、農山村部に行くとなかなか売れない。1,400近くの空き家がある。

基本政策：市民一人ひとりが、まちづくりの担い手となり、ほどよい力加減で助け合うまち

政策目標：地域に参画する新たな担い手の拡充

施策名：1-3-2 関係人口としての福知山ファンの獲得

担当部：市長公室

改善シート項目	議論結果							
	施策改善推進委員挙手数			施策改善市民パートナー				
I 政策目標の実現に向けた施策の取組について	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない		
課題が明確になっているか	0	4	0	4	11	6		
取組の方向性は合っているか	0	4	0	6	7	8		
施策を構成する事業の重点付けができてきているか	0	4	0	4	15	2		
II 施策の有効性について	1 有効である		2 有効でない		1 有効である		2 有効でない	
政策目標の実現に向けた施策の有効性	2		2		12		8	

※未回答1名

No.	所属	主な指摘事項、改善提案など
1	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> 行政が認知している市の強みを具体的に説明した方がよいのではないか。→住みやすさの背景にあるものや住んでいる理由 目標値がどこをめざしているのか不明である。何をを目指すのか？政策目標の実現へ直結するのか。有効な手段ではないと考える。
2	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> ファンクラブの会員獲得が目的になっている感じがする。ファンクラブはほぼ市外の人間なので福知山の歴史であったり、小さな魅力を提供して福知山をもっと好きになってもらうことが必要ではないか。
3	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> 関係人口を巻き込んでどのような福知山を目指すのか明確にすべきだ。そのために誰の目線（市民か外部の人など）を参考にするのかを考えていけばよいと思う。
4	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> ファンクラブを増やすことによる本質的な目的が不明瞭になっている。
5	高校生	<ul style="list-style-type: none"> 福知山の魅力を分かりやすいキャッチフレーズで表せるようなものがないと、市外の人には「イメージがない」となってしまうと感じた。 また、明智光秀ファンだけでは直接福知山の魅力につながらないので、具体的な福知山にあるものにつなげることができたら、もっとファン獲得につながると思う。 例えばスイーツやジビエ、自然などは写真を撮って発信しやすい。私はどこか訪問する時に事前にSNSでスイーツを調べたりするため、より多くの人に食べに来てもらうためにはそういった視点が大切であると思った。 「いがいと！福知山」も抽象的なので市外の人からは何があるのかわからないし、市民の人にとっても当たり前で魅力として発信しようとはならないかもしれない。 市民が発信しやすい環境づくり（募集・支援等）をしていく必要があると思った。
6	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ファンクラブ会員の入会理由を分析し、新たなファンを獲得していくことができそう。 街でよく見るポスターが光秀マインドのポスターだとはわからなかった。目にはいつも入るけど何を意図したポスターだったのか理解できない。ポスターを読み込む人はなかなかいないと思うので、一目で何を伝えたいかわかるものにすべきだと思った。何を指すポスターなのかも伝わりにくい。伝えたいことが伝えたい人に伝わっていないと思う 都市圏をはじめ市外の人々の市のイメージを聞くことにどんな意味があるのかあまりわからなかった。
7	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ターゲットは福知山に関係がない（来たことがない）人ではなく、福知山にもともと住んでいて進学等を経て市外に移住した人をターゲットにするのが良いと思う。 市での生活、良さは実際に住んでみないとわからないため、住んだことのある人に戻ってきてもらえるPRをするほうがやりやすいと思う。 私の高校時代の友達はほぼ市外に進学し、都会に住みたいという人ばかりだ。高校生や若者に福知山の良さを考える機会や、市の取組やどういう企業があり、どのような仕事があるということをもっと伝える活動を学校の授業等にすべきである。 「ほどよく田舎でほどよくまち」は魅力。小さい子どもがいる親子連れには、蛸とか雲海とかの自然はわくわくする魅力である。
8	高校生	<ul style="list-style-type: none"> そもそも「明智光秀のまち」という地域ブランドに無理がある気がする。 明智光秀は認知度はあるが、そこまで福知山の魅力にはなっていないのではないと感じた。
9	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> 明智光秀はやや負のイメージがある。 福知山市は住みたいまちランキング（東洋経済新報社）で京都府内で1位。近畿でも上位にランクしていることをアピールすべきではないか。「長田野工業団地等、働く場所に恵まれている」「大学1校、高校が6校あり教育が充実している」「大きな病院が2つあり、開業医も多く存在している」「緑豊かでショッピングセンターなどが充実している」ことなどを全面に出すべきではないか。 福知山市は北近畿の中心都市であることをもっとアピールすべきである。そのためには舞鶴市や綾部市等の近隣市と連携を深めるべきである。

No.	所 属	主 な 指 摘 事 項 、 改 善 提 案 な ど
10	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・福知山市民としてイメージとして大切にしたいものは「お城」「花火」「おに」等すぐに思いつくものがある。 ・派生としてお城→光秀→ききょうの花（紫）、おに→赤おに・青おに、と色のイメージにもつながる。 ・普段通勤に駅を利用するが、駅の看板に紫のラインがひかれており（ききょうをイメージしたものと思われる。）、もったききょうの花をアピールできればと思う。玄関口である駅や高速の入口等でアピールしてはどうか？
11	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・市外出身者なので、福知山市の良いところや課題はよくわかる。 ・世代ごとの意見を行政が把握して取組につなげるのはよいことである。 ・福知山脱線事故は聞いたことあるが、「なぜ福知山には花火大会がないんやろ？」と不思議に思っていたところ職場の人から花火大会事故を聞いて知った。 ・課題は「遊べるところが少ない」「みずほ銀行や三井等大手銀行がない」「大江町には京都銀行がない」「せっかちすぎ」「直前横行」「わりこみ」「ウィンカーを出すのが遅い」「税金が高い」「早く店が閉まる。市役所も含めて」「住んで生活していると不便」「費用がかかる」。 ・良い点は、「明智光秀」「市の取組が活発」「ききょう」「市内での移動時間がコンパクトなためあまりかからない」「おみやげグッズがよい（市外へ送っています）」等、福知山市の魅力はとてたくさんある。 ・ファンクラブも初めて知った。 ・市役所の職員は一生懸命、遅い時間まで電気つけて頑張っている。今日（施策レビュー）も頑張っている。 ・光秀シャツも1弾完売後、2弾を作ってくれた。（市民の意見も取り入れている。） ・市民や（市外の）市出身者の生の声を直接ネットで聞かれるのもいいかもしれない。 ・私は永住してもいいなと思うくらい福知山市は好きである。自信もって頑張してほしい。
12	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・ファンづくりと人口増加の手段を一本化せず、福知山の利点（①子育て、②住みやすさ、③食文化が素晴らしい、④関西圏のアクセスの良さ等）を複数アップし、市民や市出身者へアピールする。 ・出身者等より観光大使、マラソン大使等を選出し、知名度アップを図る。ファンクラブも同様に知名度アップを図る。 ・市民プール再築等、施設の充実も必要。 ・子育てや若者対策も必要。
13	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・将来市職員として働きたいと考えており、市の強みを発信していくことはとても大切だと考えている。そのためには、市の魅力を一番理解している市民から魅力を聞き出して発信することも有効であると考えている。 ・発信する物（対象物）も大切だと思うが、発信するツールとしてインスタやティックトック等を使って発信していくことも肝要だと思う。
14	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・福知山というブランドを認知してもらうために色々頑張っているのは理解できるが、その先の着地点が明確になっていない。入口としての取組は良いと思う。 ・世間のイメージに振り回されすぎではないか？SNSを活用する事は大変良いことだと思うが、定住人口増にどれくらい繋がっているのか？ ・ブランド発信を市民に頼るとい手法はいいと思うが、具体的なメリットやリアルタイムでの発信あれば行政が行うことの必要性も理解されると思う。 ・ネットやテレビ等の煌びやかな部分だけのファンだけでは衰退の一途になってしまう。一定のブームが去れば認知度数も下がってしまうのではないか。
15	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・福知山ブランドが明確でない！
16	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・市に住んでみて、住みやすいし魅力もあると思うので、この取組を進めてほしい。
17	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・被害者の方には申し訳ないですが、北近畿最大の花火大会の復活は福知山ファンが増えるのではないか。 ・施策の概要説明の中で経済効果（経済活性化）に資するという説明があったがこの取組に合致するのか？ ・PR活動に関しては綾部市のほうがうまい。例えば、シャンプーハットのでつじさんの住宅購入TVのPRや水源の里条例などでのPR。
18	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・福知山市は高校生の活躍の場をつくるのが上手い。娘は高校のときに市の事業に携わったことで市が大好きになり進学した大学で福知山市の話をもういいと思うほど話しているようである。 ・高校生は外へ出る可能性が高いので一人ひとりが広報すれば大きな広告塔になりそう。娘の友達にも福知山市に興味を持ってひとりで旅行に来ていた。 ・福知山市外で働いている私からみてもとって住みよいところだと思う。
19	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・福知山市民は光秀に良いイメージ（理解）があるが、外への発信であれば光秀の良さをまず発信しなければ、良いイメージのブランドにはならないのではないか？ ・今の光秀ファンはテレビ放映での良いイメージが好きでファンになっているのではないか？それが同時に福知山ファンとなるのか？光秀に頼りすぎではないか？ ・福知山にスポーツやイベントに来るだけで、本当に交流といえるのか？お祭りだけではダメなような気がする。 ・現時点で、今、福知山市民（各個人）は何を発信したら良いのか？
20	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少し具体的に説明してほしい。目線が少し違うのではないか。
21	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・福知山市で楽しく遊べる。おいしいスイーツなどもっと市民にも教えてもらいたい。もっと遊び方を教えてもらいたい。
22	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・観光と移住とでは全然意味合いが違うと思うが福知山ファンクラブ会員募集はなんのためにやっているのか？ ・住民と市政の意見が一致していないように思うが、住民との意見合わせはどうするのか？
23	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・東京から引っ越してきて、当初は東京までの交通の便が悪く抵抗があったが、子育てをする上で人口密度が低く、のびのびとできる点、施設が広い、自然が多い、人が優しい（外部の人間も受け入れる、気遣ってくれる）というところが魅力的だと思った。 ・いがいと住む上でモノがそろっている、おいしいお菓子屋さんもあるというのも良い。
24	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・ブランドに頼ってしまっていて少々空回りのように思える。 ・もっと市民のことを知ろうとしたら様々な事がもっとわかってくるのではと思った。 ・市民と市政の間に距離を感じる。
25	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・ファンクラブの意味がわからない。 ・いがいと福知山で、わたしは後でこんな良いところがあるのかと理解した。良いところがあるので一度出ましたが戻って今になる。

基本政策：市民一人ひとりが、お互いを尊重しながら、共に育み、共に育つまち

政策目標：互いに自分らしさを尊重した人権文化の創造

施策名：3-1-1 偏見や差別のない多様性の尊重と理解促進

担当部：人権推進室

改善シート項目	議論結果							
	施策改善推進委員挙手数			施策改善市民パートナー				
I 政策目標の実現に向けた施策の取組について	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない		
課題が明確になっているか	0	1	3	0	8	9		
取組の方向性は合っているか	0	0	4	0	11	6		
施策を構成する事業の重点付けができていないか	0	1	3	0	12	5		
II 施策の有効性について	1 有効である		2 有効でない		1 有効である		2 有効でない	
政策目標の実現に向けた施策の有効性	0		4		7		10	

No.	所属	主な指摘事項、改善提案など
1	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> ・(意見シートから)関心を持ってもらう人、理解する人、と理解してかつ支援する人との広がりをどのように把握していこうとしているか？→同等につかむのではなく層別して考え今後の施策事業の内容を見直す必要があるのではないか？ ・(意見シートから)施策実施により、関心を持ってもらう人、理解する人、と理解してかつ支援する人の広がりを同等はどのように把握していこうとしているか？ ・(意見シートから)令和4年9月に「責任あるサプライチェーン等における人権尊重のためのガイドライン」が示された。今後、先進企業がどのようにこの課題にコミットしたり、ガイドラインに沿ってどのような対応をしていこうとしているか等の講演会のニーズが期待されるのではないか？ ・政策目標と施策のギャップが大きい原因は何か。例えば担当者がギャップであると捉えられていないのか。
2	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者が相談しやすい環境作りが必要である。 ・デリケートな問題だからこそ解決に向けての支援者の専門性が必要である。専門性が必要なため外部関係機関との支援の仕組み作りも必要である。 ・性的マイノリティにこだわらず他にも取り組む課題もあるのでは？
3	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域づくりとして戦略的な捉え方が不足している。 ・従来の取組の延長線での捉え方になっており残念に思う。 ・LGBTを多様性の尊重の最重要課題として捉えるのであれば、単なる啓発ではダメではないか。
4	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> ・政策全体の課題が明確ではないように思う。個別の問題については問題点や対応策は行っているが、全体の方向性が曖昧である。個人人権問題についても当事者からマイクロな視点で困っていることを聞いた方がよいのではないか。 ・命や人生にもかかわる程の問題であるにもかかわらず、救済策は不十分ではないか。 ・市で全てやらなくてもよい。広域対応やライン相談、相談窓口をトイレの個室に掲示するなど、すぐにできることはたくさんあると思う。
5	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの課題に対して問題意識を持っているとは思ったが、実際、当事者はどんな問題を抱えているのか、どうすればもっと当事者の人が話しやすい雰囲気になるのかというところがあまり明確に把握できていないのかなと思った。 ・メディアでLGBTQについて取り上げられることが増えてきた中で何となく取り組んでいるのかなと感じた。LGBTQ以外の課題がまだ十分に解決できてないため、それ以前の問題ではないかと感じた。
6	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・相談できる当事者が少ないという現状を聞いてどのような取組を行っていけばよいのか考えるよい機会になった。 ・幅広い年代の人が知らないといけないことだと感じた。
7	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・課題や目標を問われた時に、3-1-2、3-1-3と重なる部分が多いと思ってしまったので、それぞれの施策に対する課題と目標がうまく区別できていないように感じた。 ・これから性的マイノリティの方に対する取組を進めていくうえで課題を明確にすることを大切にしたいと思った。
8	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・抽象的であり、具体的な課題認識ができていない。講演会だけでは変わらないと感じた。 ・パートナーシップ制度は証明書だけで必要とされていることがカバーできるのか考えてほしい。
9	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・保護と救済が最も大切なのは理解できた。しかし性的なことに関しての相談はLGBTQに該当する人、性について悩みを持っている人に相談したい気持ちの方が強い。
10	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・相談場所の設置や講演会の取組だけで課題が解決するのかが分からない。行政が課題が何か分かっていなかったら私達も分からない。社会全体で課題を明確にする必要がある。

No.	所 属	主 な 指 摘 事 項 、 改 善 提 案 な ど
11	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・現段階では市の職員が内部研修をしましょうという段階なのか？市職員のめざすべき方針、方針に基づく要領、技量が完成しており市民の困難に対処するという段階ではないか？市役所の中での研修会を頑張りましょうという段階の紹介なのか？相談窓口がまだ何もできていないということなのか？ ・「LGBTQ窓口」「人権窓口」その他の相談窓口は福知山市にはないのか？「どんな困難には対応してもらえるのか？」「どのような方針で対応してもらえるのか？」。対応する職員は「お悩み相談員」なのか「専門家」なのか？
12	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・福知山市は広報誌などにも常に人権が謳われており人権文化が定着していると思う。
13	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単にカミングアウトできる人ばかりではないので、まずは教育、啓発をしっかりとしていく必要性を感じる。 ・カウンセラーに頼りたい人に向けてのアピールも必要だと思う。定期的では無く常駐していかないとダメだと思う。
14	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・権利が侵害されたときに「相談せずに受け流す人が多い」ということが課題だと考えた。相談窓口の周知、整備とともに「権利侵害を受けている相談等においては自分を守る」という意識付けが必要だと思う。 ・待ってるだけでは市民の行動変容は難しいのではないかな。 ・市民も「おかしい」と思えることを、通報できる意識を高めるために様々な団体と協働することが大切だと思う。
15	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者が誰だか分からない様なゆるい集まり中で差別やハラスメントに至る考え方の間違いや人権を尊重する正しい考え方を話し合い、「知る」機会を増やして行くことは人権文化の確立につながるのかもしれないと思う。 ・差別をする側、ハラスメントをする側が実は様々な圧力を受けていてその解消を弱い人(自分や周囲と違う少数派)に向けることで自分の心の安定を欲する心理もある。 ・保護救済と平行して加害者側(ひょっとして無意識のうちに自分自身も加害者側なのかもしれない)の意識を変える教育は絶対必要である。 ・子育てや介護の中で力のある側が被害者にならないよう、自分自身について客観的に見る目を養い、お互いの立場を変えて考える習慣をつけていく、これも人権文化の一つかなと思った。
16	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・本当に困っている人は時間は関係ないのではないかなと思う。難しいかもしれませんが24時間365日での対応が必要ではないかなと思う。 ・市の職員が研修をされているのはよくわかった。その研修した事をを家族や職員同士で話をするなど、普段の会話で話せるといいなと思う。
18	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ相談できないのか、どの内容をどこに相談すれば良いのかわからないことや相談した時の対応によって相談することが怖くなるという事もあると思う。気軽に相談できる方法を考えてほしい。 ・施策改善推進員の「福知山市だけでやらなくても良い。もっと大きな所と連携をとって少しでも早く対策をとるべき」というご意見にとっても同感した。
19	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・私はサロンを管理しており、その内容の相談の方が来られた時、救済・解決してもらえるのかまだまだ不安感を感じました。
20	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・課題が大きいので仕方がないが、全体的に話が抽象的でピンとこない。 ・外国人や「ハーフ」の問題、「女性問題」の定義や男性も家庭に貢献できる働き方が無いことなどに全然触れていないので、どの位把握しているのかわからなかった。

基本政策：市民一人ひとりが、お互いを尊重しながら、共に育み、共に育つまち

政策目標：互いに自分らしさを尊重した人権文化の創造

施策名：3-1-2 人権を尊重した地域生活の確立

担当部：人権推進室

改善シート項目	議論結果							
	施策改善推進委員挙手数			施策改善市民パートナー				
I 政策目標の実現に向けた施策の取組について	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない		
課題が明確になっているか	0	2	2	0	5	5		
取組の方向性は合っているか	0	1	3	0	6	4		
施策を構成する事業の重点付けができていないか	0	0	4	0	6	4		
II 施策の有効性について	1 有効である		2 有効でない		1 有効である		2 有効でない	
政策目標の実現に向けた施策の有効性	0		4		5		5	

No.	所属	主な指摘事項、改善提案など
1	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会や福祉部門等の関係課との情報共有が必要。 ・多種多様な困り事に対しての人権推進室としての役割は何か？
2	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい人権やインターネットでの人権侵害、高齢化など、従来よりも複雑化しており、より人権推進室の役割は大きくなってきた。総合的な窓口としてそれらを踏まえて課題決定を具体的にできるはず。具体的な相談から見える問題への対応から政策化するプロセス構築も重要である。
3	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> ・政策目標の実現につながる有効性や効果的かどうかは疑問がある。 ・条例に平行して総合的、計画的な取組はスピード感もつことが必要。従来施策と事業のままではないか。
4	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> ・中・高校生に活動の輪を広げていくことは評価できる。 ・10項目の課題について根拠となるデータを十分集めてから現状分析を行う必要がある。 ・縦割りで課題別の対応になっているように思える。総合的に対応できる横のネットワークが不足していると考えられる。 ・人権擁護委員を活用し行政が情報集約しプラットフォーム化していくべきではないか。
5	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・市民全体の意識が地域性やこれまでの歴史の中で現在のあり方になっていること認識して、現状を正確に知ることが避けて通れないことから、施策改善推進委員がそれを知ることが必要と気づくよう質問を繰り返しているが、質問の意図を理解されていない様に受け取れてしまう。 ・人の考え方は人を大切に正しい教育でしか変えることが出来ないため、市役所、学校、家庭、地域と連携して欲しい。
6	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・AIを用いてネットのモニタリングを行っても特定の個人一地域名の検索をしても有効ではない。SNSの一つや二つを目視しても意味はない。 ・人権侵害の事例の統計はすぐに見られる様にしておくべきであり、コロナ禍であっても調査をしていないというのは問題である。相談等を聞くだけで業務としているのであれば困難の解決につながらないと思われる。
7	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・問題や課題の焦点がぼやけている気がするため、困って相談したい人にとって救済になっているのかがわかりにくい。 ・DV相談が多くあるとのことだが、市だけで解決をしようとしているのか事例によっては警察等への協力も要請しているのか？疑問点が増えるばかり。 ・コロナの為、直接面談は出来ないのは理解できるが、ネットを使っているのなら、ネット(面談以外)等を使っての相談窓口を増やしていく事は考えていないのか？
8	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・主体性が見えない。「人権」と言う言葉だけが1人歩きしているように聞こえた。
9	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・人権推進室が主体的に取り組めていないことが見て残念だった。 ・報告を受けてまず人権推進室職員全員が情報を共有することが大前提であり、それを把握できていないのに「市職員」であったり、さらに「市民全体」に取組を広げることは程遠い話だ。 ・女性や子ども高齢者のみならず働く全世代でも様々な人権問題(パワハラ等の問題)もあると思う。 ・どんな人でもいつでもどちら側になるということをつかかってもらう。市職員もそういう考え方を持てば今日の質疑応答のような他人事的な返答にならないのではないのか。
10	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・人権は市全施策の基になるものだと思う。 ・人権に関わる問題に遭遇した時の市民の行動が大切である。窓口の整備も大事であるが、自分を大切にする行動がとれるような意識醸成を進めてほしい。
11	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・件数の把握だけではなくその後の対処がどの様に行われているのか見えない。対処は本当に出来ているのか？ ・一生懸命されているとは思いますが、我々にはその部分が伝わって来なかった。 ・DVや子どもの虐待は毎日被害を受ける当人の気持ちを考えたら、もっと切羽詰まった空気が伝わって来ても良いのではないのか。
12	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・人権はとても多様だと思うので相談や問題も多様で、一括りにできない事でもあり、これをやったから問題が改善するという事もあればそうではない事もある。 ・相談の内容とその相談者の生活環境や背景等をしっかり受けとめほしい。

基本政策：市民一人ひとりが、お互いを尊重しながら、共に育み、共に育つまち

政策目標：互いに自分らしさを尊重した人権文化の創造

施策名：3-1-3 多文化共生とユニバーサル社会の推進

担当部：人権推進室、福祉保健部

改善シート項目	議論結果							
	施策改善推進委員挙手数			施策改善市民パートナー				
I 政策目標の実現に向けた施策の取組について	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない		
課題が明確になっているか	3	1	0	10	0	0		
取組の方向性は合っているか	3	1	0	10	0	0		
施策を構成する事業の重点付けができていますか	1	3	0	8	2	0		
II 施策の有効性について	1 有効である		2 有効でない		1 有効である		2 有効でない	
政策目標の実現に向けた施策の有効性	4		0		10		0	

No.	所属	主な指摘事項、改善提案など
1	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所を利用していない障がい者の支援も必要。 ・生きづらさの相談ができる環境（居場所づくり等）や家族への支援体制が必要。 ・能力は高いが働けない大人のひきこもりの実態や対策はあるのか。
2	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルな社会の実現という観点で社会参加をとらえる。
3	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> ・技能実習生受入企業の「生活に馴染む」ための取組等の例を共有化していくことも大切。 ・「馴染む」から「住みやすい」への対応は分けた取組が必要。生活の基本となる自治会や町内会の再構築が必要。 ・共生社会づくりに向けてのシンボリック、キーワード「ONE福知山、ONE福知山人」などの視点で共生を目指してほしい。
4	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会の一員になってもらうのが最終目標ならば外国籍の対応はもう少し彼らの中に入れていくことも必要、「会社を通してコンタクト」だけでは不足だと思う。「くらしやすい」とは障害者だけではないすべての方の人権を尊重することは難しいことではあるが、取組を広く考えてほしいです。 ・多くの団体・人とつながること、多くの行政の対応がやす、全体としてみていくことが大事だと思います
5	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいサポート」制度等の情報が多くの市民に届く方法があればいいと思う。 ・手話に興味があるが、手話教室等に参加する勇気がなく先に進めていない。参加しやすい始めやすいきっかけになるような会があればいいと思う。 ・病院で働いていたことがあるが、やはり外国の方が来られるとコミュニケーションに困る。英語だけで解決できるわけではないので通訳ボランティアが充実すればいいと思う。
6	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人と障がい者を一緒にすることに多少違和感がある。 ・国際結婚をしているフィリピン人の母親は子どもの学校から届く手紙を読めないという問題がある。子どもたちはアイデンティティの形成が困難である。フィリピン文化や言語の良さを伝える必要もある。
7	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・人材不足が顕著になっている現在、外国人や障がい者の役割は重要になってきている。ケアを丁寧に行ってほしい。 ・また、丁寧にサポートを行うことによって福知山のファンになってもらいたい。
8	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・外国籍の方が多くなっているので、とも仲良く生活をできる社会になっていくことを望んでいる。 ・外国籍の方や高齢者様、障害をお持ちの方が福知山市で「私は〇〇〇で役に立てるかも…」という自信を持って「社会の一員として参加したくなる」心を持ってもらえる配慮を私たち市民も行いたいと考えている。
9	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・一般市民レベルでのサポート支援の中で自分でもできることを模索していこうと思った。 ・ICTの活用やアプリの活用によって距離感が近くできる気がした。 ・特に外国籍の方への配慮として文化面での相互理解が必要だと思った。
10	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・発表される市職員の表情やチーム感が好ましく、この皆さんなら相談したいと思わせるやる気や本気を感じた。 ・問題を抱えて相談に行く当事者は、市役所に行ったときの対応次第で本当の解決に至らずとも2次案、3次案で折り合いをつける気持ちにもなり、それが本当に最善の解決だと納得できる場合もある。
11	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような人であってもコミュニケーションは必ず必要なことであり基本でもあり重要。
12	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいサポーター」企業が増えることを希望する。障がい者の雇用に対する理解はもちろんですが、 ・私の職場にも就職して「仕事ができない」と思われていた人が、その後の受診によって手帳を取得することが何件かあった。受診をあわせて必要な支援や周囲が合理的配慮ができるようになるためには、職場において理解を進めることが大切だと思った。

基本政策：市民一人ひとりが、その人なりの生きがいを持ち、健やかで活動的なまち

政策目標：アクティブに人生を歩める生きがいづくり

施策名：5-1-2 生活の質を高める文化・芸術活動の振興

担当部：地域振興部

改善シート項目	議論結果					
	施策改善推進委員挙手数			施策改善市民パートナー		
I 政策目標の実現に向けた施策の取組について	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない
課題が明確になっているか	2	2	0	2	5	6
取組の方向性は合っているか	0	3	1	1	4	8
施策を構成する事業の重点付けができていないか	0	0	4	0	6	7
II 施策の有効性について	1 有効である		2 有効でない			
政策目標の実現に向けた施策の有効性	2		2		3	
					10	

No.	所属	主な指摘事項、改善提案など
1	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> 課題を解決するためのちょっとした工夫を、事業の中に取り入れることで、文化に関わる人を増やしたり、人材育成につながったりすることがあると感じる。 ハード事業（展示や文化ホール建設など）のみを重点施策とするのではなく、予算は小さくても施策の課題を解決することにつながる事業ができるのではないかと。
2	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> 箱モノは立てた後の維持費が重くのしかかってくるので、事業の妥当性はInitial cost+Runnig Cost合わせて検討するべきではないかと。 若い人や市民の意見を聴いてソフト面の検討をお願いする。
3	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> 文化の理解が狭いのでは？もっと村の祭りや、行事を守る活動が必要かと思う。 文化のソフトサイクルの説明があったが、一般的で福知山の独自性が見えない。
4	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> 新文化ホールで文化ホール補助金を出してもらい安価で低年齢（小中高校生）や高齢者まで市民が文化（演劇、歌、吹奏楽など）に触れる機会を多くなるようにしてほしい。
5	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> 新文化ホールの建設と同時に、利用方法（ソフト）も市民から公募をさらに加速化させて進めるべき。 IT関連のハード面も充実させるべきで、そうすれば若年層の利用数も増えると考えられる。
6	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> 新文化ホール建設は、市民の関心も非常に高いため、常に市民目線での説明が不可欠かと思えます。 ソフト面の重視、市民全体へのアプローチを行政が試みるのは、いい視点だと思えます。
7	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> 災害時の拠点、避難所となることも期待する。
8	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> 市内及び近隣の吹奏楽部がわざわざ京都市内まで練習に行くという現状に『変化』を起こしてほしい。 新文化ホールを基点に『福知山市を音楽の中心地にする』という夢をきちんと言葉にしていきたい。 一方「生きがいづくり」については大いにギモンを感じる。天座や板生、大原に住む高齢者にはなんらひびかないはず。（物理的に遠すぎるうえに、自家用車がないと広小路まで来るのが大変） 「地域の生きがいづくり」は、地域公民館（教育集会所）の利活用が重要。新文化ホール建築中に地域行脚をしてはどうか。（数人のチームで集会所を巡る） 各地域から『まちなか』まで訪れやすいサポートが必要。これについては郊外からの市内観光客の誘致にもなる。
9	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> どうしても質の高い作品に触れるには都会に出ないといけないので、福知山でも質の高い文化・芸術に触れることで、市民の生活の質も高まるように思う。 そもそも新文化ホール事業の計画自体知らなかったもので、市民がどれくらい知っているか疑問で芸術に対してはあまり盛り上がりを感じないが、現在はアート思考もビジネスの中で注目されているので、それらを刺激する場が増えたらビジネスの面でも活性化するのではないかと考えた。
10	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の生きがいの一部になると思うが、それがメインではなく、若い世代（子供～子育て世代）にとって楽しく魅力的な街づくりの一環となる目玉政策にしてほしい。
11	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> 市民も文化・芸術活動の振興に文化ホールは不可欠なので新文化ホールの建設をすすめて欲しいと思えます。ただ、随時、進捗状況を市民に示して欲しい。

基本政策：市民一人ひとりが、時代の変化を先取りし、地域産業の発展に貢献できるまち

政策目標：地域経済を支える産業の振興

施策名：8-1-1 既存企業の成長促進と中核企業の誘致・定着の促進

担当部：産業政策部

改善シート項目	議論結果							
	施策改善推進委員挙手数			施策改善市民パートナー				
I 政策目標の実現に向けた施策の取組について	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない		
課題が明確になっているか	3	1	0	7	4	1		
取組の方向性は合っているか	0	3	1	5	6	1		
施策を構成する事業の重点付けができていますか	1	2	1	4	4	4		
II 施策の有効性について	1 有効である		2 有効でない		1 有効である		2 有効でない	
政策目標の実現に向けた施策の有効性	3		1		7		5	

No.	所属	主な指摘事項、改善提案など
1	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> 工業団地の流出防止、誘致共に地域の魅力や優位性をPRすることも効果があるのでは。 奨励金の交付の仕方を工夫すると、効果的になるのではないか。
2	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> 離れていく企業を引きとめるのは労力多く、コストもかかり、中長期的に残ってくれるか不確定です。 企業自ら福知山で移転したいと思ってもらえるような魅力の言語化をしてみてください。
3	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> 立地企業の流出リスクを少しでも減らせるように市と企業とのより密なコンタクト、情報交換が必要と感じた。 他の80の競合相手に埋もれない努力、議論を聴く中では、”働きやすさ”しかないように感じた。子どもが将来働ける場として、より活性化してもらいたいと思いました。
4	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> 工業団地が新卒の高校生の募集が多いというが、今子ども達や親ごさんの考えが進学と就職のことについてどう考えているのか分析し、どのように働きかけるかも重要だと思う。 流出企業がどうして流出したかももう少し分析したり、弱みより強みの方が多いのになぜ誘致が進まないかももう少し分析する必要があると思う。
5	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> 長田野企業の人事担当者と話をして感じる喫緊の課題は「雇用の創出」ではなく「人材の確保」です。 市の強みである「高卒就職希望者」は工業高校役100名、成美約70名(京都府の私立で一番多い)、淑徳40名ほどで、その人財(人材)を流出させないことが大事。 そのための対応として「奨学金制度」を創設し、毎月1万円×3年間の貸与、卒業後3年以上長田野企業に勤めたら返済免除(舞鶴市とポリテクはやっている)→修学旅行や自動車免許取得のお金になり、子育て支援にもなる。工業高校のトップ層は京阪神の大企業へ行く→流出を除き、人財の確保が出来はじめると”企業誘致”の切りふだになる! ハード面は揃っているの、次はソフト面を!!
6	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> R4年度で目標値を達成できているので、「維持or更なる目標設定」のどちらかで取り組んで良いと感じました。 自衛隊雇用マッチングは非常に重要。(陸自の採用増加にもつながると思う) 三和荘をアネックスの福祉施設(保養)と位置付けて活用してほしい。
7	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> 長田野工業団地(アネックス含) 既存企業が継続操業する利点、原因の分析が不十分。 今後誘致する企業に対するアピール材料の調査不足、労働力確保のための施策が不十分。 市内の高校生・大学生が福知山に住み続けて働く事に魅力を感じる企業が存在するであろうか。又、都市部へ進学する学生の割合も高く、Uターン就職する魅力を持つ企業が存在するであろうか。 企業の魅力だけでなく、福知山に居住しようと思わせる町の生活の魅力向上も併せて必要なのではないかと考える。 長田野工業団地で働く事と市民生活の質感向上の抱き合わせ政策を推進する必要があると感じる。
8	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> 企業誘致の為、直接接企業目標が300社と同じ目標です。これをアップして、今後の結果確認が必要かと思います。熱意が足りないのかも。 奨学金負担制度はとても良い事かと思いますが、福知山市に就職する全新採用社員に適用すべきだと思います。6万円の予算は少な過ぎると思います。 府立工業高校の活用をもっとすべきかと思います。例えば長田野の企業が一部の授業を受け持つとかできないか。 長田野以外の企業に対しても、もっと対策すべきでは。地元企業へ就職した場合のインセンティブを与える。

No.	所属	主な指摘事項、改善提案など
9	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・福知山を地場とする既存企業への成長促進について触れられていなかったのではどのような施策をとられているのか知りたかった。 ・企業誘致は雇用、地元企業は雇用と産業創出という側面があると思う。
10	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・新工場誘致に関して福知山の強みをもっとアピールする必要があると思う。血液センターが拠点を作る場所は地震が少ない場所を選んでいるので福知山が選ばれたと聞いているので京阪神に近く大地震の可能性が低い事をもっと売りにすべき。 ・企業が進出しやすい住環境も含めた町づくり政策が必要。
11	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・もっとたくさんの高校や大学がある有利性を活かした説明会を実施してほしい。 ・生徒と企業のマッチングを設定する→学校での企業説明会

基本政策：市民一人ひとりが、時代の変化を先取りし、地域産業の発展に貢献できるまち

政策目標：地域経済を支える産業の振興

施策名：8-1-2 産官学金連携を通じた経営力の強化

担当部：産業政策部

改善シート項目	議論結果							
	施策改善推進委員挙手数			施策改善市民パートナー				
I 政策目標の実現に向けた施策の取組について	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない		
課題が明確になっているか	2	2	0	4	5	4		
取組の方向性は合っているか	1	0	3	2	6	5		
施策を構成する事業の重点付けができていないか	0	2	2	2	5	6		
II 施策の有効性について	1 有効である		2 有効でない		1 有効である		2 有効でない	
政策目標の実現に向けた施策の有効性	2		2		3		10	

No.	所属	主な指摘事項、改善提案など
1	推進委員	・高校生の方のコメントが的を射ていた。具体例、数字は早急に確認・整理し、課題と方針をつめる必要がある。
2	推進委員	・施策の効果検証を数字でして頂きたいと思います。事業継承、雇用、税収等 ・課題の後継者不足についての対応策は現在ほぼ成されていないと思います。
3	推進委員	・政策目標を達成するための課題の現状の数値分析が充分できていないために、対応の方向が定まっていない。 ・施策の成果を数値で把握し、効果を測ることが必要では。大学(情報学部)に現状分析することを協力してもらっては。
4	高校生	・数値の把握が必要ではないか。飲食業の継承は必要なのか。高校とも連携してほしい (slack) ・福知山の利点である大学(公立大学)を大いに活用してほしい。継承者不足など根本的な問題を提示してほしい。
5	市民パートナー	・福知山産業支援の方法は第三次産業向けで、現行の中小企業と金融機、市役所での取り組みでないと雇用規模が大きくなると感じる。費用(3,000万円)：効果(税収・雇用)の分析が必要かと思います。現行組織では事業継承相談は難しく分けるべきかと思います。 ・福知山産業フェアの効果分析はどうなっていますか？京都産業フェアは追跡確認があったかと思います。 ・税金や補助金を利用して運営している認識が薄いと感じる。もっと税金を大切にしてください。 ・組織のダブリ仕事があり、整理すると節税になる。 ・シニアと事業継承のマッチングはその通りで、その活用方法を考えてください。
6	市民パートナー	・北近畿コラボスペースを初めて知りました。福知山公立大学を中心に情報共有や意見交換のシステムがもっと活用され地域産業の発展に寄与する事に期待します。
7	市民パートナー	・産業支援センター、商工会議所、商工会への税金投入の意義やあり方について、知らないことや考えた事もない考えや視点を与えてもらった。 ・また、産官学金の連携や北近畿コラボスペースの存在は知らなかったもので、こういう場で市民に知らせるよい機会となったが、もっと市民への広報が必要だと感じた。ただ、この施策に対しては、方向性やゴールが分かりづらい。
8	市民パートナー	・産業フェアの効果は非常に大きい。むしろ年2回の開催でもいいと思う。 ・slackにより『日常的にSNS上で会議ができる』ことはスピード感のために非常に重要なので、このまま見守っていてほしい。学生側からの要望はできうる限り応えてあげてほしい。
9	市民パートナー	・産業支援センターの相談が年々増えているのに係る人数(4人)が少なすぎる⇒十分な相談ができていない⇒本音が聞いている→将来が不安になる ・小売業等の実態の把握が不十分である→現状・将来について ・市民の半数以上が女性(つながりが強い、うわさずき)なので、女性をターゲットにした店、商品を考えてほしい。

No.	所 属	主 な 指 摘 事 項 、 改 善 提 案 な ど
10	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> 産業支援センターの市税を投じた効果のエビデンスの説得力に欠ける。数字の内容が分析が浅い。 産業支援センターと商工会議の違いが判らない。 経済センサスを頼りすぎて福知山市内のエビデンスが取れていない。データが取れていないのに訪問数だけでアピールしているように見える。 相談にきてもらう「待ち」でよいのでしょうか。
11	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> 事業承継と聞くと弁護士や税理士、金融機関をイメージします。 行政としての役割(特色) があまりないと感じました。 中小企業活性化協議会の活用もあるかと思えますし、廃業支援という選択もあると思えます。(推進委員さんが発言された新規創業者の創出もあると思いました)
12	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> コーディネーターの指摘の通り、商工会議所と創業支援センターの役割が競合しており、合理性が認められない。創業支援として個人事業者のミクロ的支援に有効で便利な部分も見受けられるが、政策の費用対効果を計る上での調査や、事業追跡、データ評価、政策アセスメントが不十分である。又、方向性も不明確であり場当たりのものと認められる。 Slackに関しては、具体的な事業の像が見えてこない。より具体的な事業に取り組み、市民の認知度を上げる必要性があるのではないか
13	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> 累計相談件数が5,000件を超えるなど福知山産業支援センターの利用、活用が予想以上に活発であることに驚いた。 しかしながら、議論を聴いている限りでは機能しているのが福知山産業支援センターしかない。一極集中になっているのではないかと懸念を抱いた。 福知山公立大学の産業振興への貢献事例を学べた。
14	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> 京都府なら京都府産業支援センターと北部産業創造センターがあり、いろいろな企業が入り起業やマッチングや企業・商店の跡継ぎ、相続などの事業の実績がある。 商工会議所、商工会とのすみ分け(仕事分け) は必要と思う。

基本政策：市民一人ひとりが、時代の変化を先取りし、地域産業の発展に貢献できるまち

政策目標：地域経済を支える産業の振興

施策名：8-1-3 新産業の育成と起業支援の充実

担当部：産業政策部

改善シート項目	議論結果							
	施策改善推進委員挙手数			施策改善市民パートナー				
I 政策目標の実現に向けた施策の取組について	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない		
課題が明確になっているか	0	2	2	4	3	6		
取組の方向性は合っているか	1	0	3	3	3	7		
施策を構成する事業の重点付けができていますか	0	2	2	2	3	8		
II 施策の有効性について	1 有効である		2 有効でない		1 有効である		2 有効でない	
政策目標の実現に向けた施策の有効性	1		3		4		9	

No.	所属	主 な 指 摘 事 項 、 改 善 提 案 な ど
1	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> ・シリコンバレーを目指すのであれば、事業の内容を新産業が成立できる内容に全面見直しが必要になるのではないか。 ・そもそも課題が福知山市にとって正しい課題なのか。起業する人が増えることを主眼に置いたほうがよいのではないか。 ・理想の実現に向かう行程が明確になっておらず、漠然としている。施策（事業）の内容を結果を導くために詳細に組み立てる必要があるが少しの改善では見込めない高い理想なので、市としてこの施策に投資すべきかどうか、再検討する必要があると感じた。
2	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> ・スタートアップ業界は情報、スピード、ネットワーク（人的）、投資額という様々な条件が整っていても、生き残りが厳しいのが現実です。 ・確実性が低い施策に今後も予算を投入し続けても良いのか。再検討は必要ではないかと思えます。 ・「なぜ福知山市でStartUP?」が最後まで疑問に残りました。福知山らしいStartUPは？他の産業との比較で優先順位はおちるのでは？
3	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・スタートアップ企業を輩出するためには新産業(市内にない産業、アイデアを加えた産業)に他の地域福知山市と似たような地域でどんなものがあるかどんなことしているか提示していくことでまず、やってみようかという流れができるかなと思う。 ・新産業の育成のことばかり、考えず、今あるもの、できること、に付加価値を加えたり、加工したりして企業の生き残り後継者づくりをすでにしておられる所もある。
4	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・福知山市内に美容室が乱立しすぎているので、起業しても共倒れの可能性も出てくるのではないか。 ・起業サポートも業種をしぼったり、特定の業種のサポートを手厚くしたりなど、差別化が必要ではないか。 →「スイーツの町」「肉のまち」など謳ってる町のウリに対して起業サポートを充実させるのもアリなのでは！ ・東京のマネはできないし、する必要もないので”福知山版スタートアップ支援”をしていくべき。例えば田舎起業がしたい都会の人に対する田舎アドバイスや田舎支援など、都会の市町村にはできない田舎の強みで勝負したらどうだろうか。
5	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・スタートアップ企業の具体策がみえない。→相当の距離がある→福知山ならではの物はないのか？
6	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・スタートアップ企業の輩出という難しい取組みにはベンチャーキャピタルのアドバイス等が必要だと思う。
7	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・スタートアップは福岡市が国家戦略特区となって先端都市となっていると思います（著書もあって参考になると思います。）。 ・福知山でなければならぬ理由が薄く、委員の方からの発言にもあった誘致という手法が有効ではないかと思いました。
8	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・市場規模が限定された福知山市において、高齢化過疎化が進む中、既存の産業維持も容易ではないところ、新規分野産業が企業する余地は到底困難と思われる。 ・それより優先事項は、既存産業の維持と発展であり、可能性が極度に低い事業に具体策がないまま継続するのは得策とは思われない。産業支援センター事業の充実させる方が優先策と思われる。

No.	所 属	主 な 指 摘 事 項 、 改 善 提 案 な ど
9	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・「起業意識の機運醸成が必要」と考えるのであれば、産業観光課職員が『定年後にやりたい』と思える施策（事業）の立案が第一ではないか。 ・企業アンケートってとっていますか？（福知山市を選んだ理由・手続きに関して苦労したか・融資について苦情があるか（資金繰り）） ・『スタートアップ企業』の定義をはっきりさせてほしい。聞く限りにおいてはわかりません。 ・市職員は「創業セミナー」の中身を聞いているのか？（参加者は1人でもいるのか？）、そしてセミナーを完了して『定年後は創業したい』と感じられたか？、どのようなスタートアップ企業に挑戦したいか？、これらの実感が無ければ市民（77%）にもひびきにくいと考えます。 ・スタートアップ企業として「インスタとチャットGPTの融合」を公開した企業が両丹新聞に載っていた記憶があります。市役所では把握していなかったのでしょうか。（飲食店に対するメッセージをGPTで自動返信するITサービス）
10	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の把握を的確に迅速に行い、とりまとめることが重要と考えます。
11	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・福知山市に先進的企業を集積（事業目的と行動が合致していない。）させる事と福知山公立大とSHIBUYAQWS（聞こえは良いが無駄遣いになっていないか？）との関係が不明。投資会社等との関係構築とは何なのか？ ・プログラム参加者のその後どうなっているのかデータ無し（起業状況が重要） ・福知山公立大の情報学部を活用して、福知山市にデータ解析の会社誘致に力を注ぐべき。 ・最近福知山市で行っている活動は、形式にこだわり過ぎている。まずは、市長を先頭に先進的企業誘致ではないか？（アイデアのある人材確保）
12	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・新事業＝スタートアップ企業が、将来、長田野工業団地との産業の両輪となればいいと感じた。 ・夢のある話だが、市の事業である以上、夢で終わらせてはいけない。福知山産業支援センターの起業支援の実績と、この事業の実績の差は何なのか？疑問に感じました。
13	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・産業の起こりが市に判っていないような気がする。美容院の開業が多いのは、独立心が高い地域であることを自覚した。ゼロからの出発を市が応援できる福知山ではない。
14	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・目標はいいと思うが、移住してきた身として福知山の企業で働いた経験から、他所から来た者や新しいもの、ITに対しての受け入れ体制の少なさを実感した。地元ではない人間がここで新しいことを始めるのは難しいのではないかと感じた。市が対策を考えても市全体が新しいことに対する受け入れ体制を整えることが大切なのではないかと思いました。

基本政策：市民一人ひとりが、時代の変化を先取りし、地域産業の発展に貢献できるまち

政策目標：DXを生かした商業・サービス業の活性化

施策名：8-2-1 商店街や個店の魅力向上支援

担当部：産業政策部

改善シート項目	議論結果							
	施策改善推進委員挙手数			施策改善市民パートナー				
I 政策目標の実現に向けた施策の取組について	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない		
課題が明確になっているか	0	1	3	8	9	10		
取組の方向性は合っているか	0	1	3	0	9	18		
施策を構成する事業の重点付けができていますか	0	0	4	2	12	13		
II 施策の有効性について	1 有効である		2 有効でない		1 有効である		2 有効でない	
政策目標の実現に向けた施策の有効性	0		4		2		24	

※未回答1名

No.	所属	主な指摘事項、改善提案など
1	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> ・福知山ならではのどのような商店街を作っていきたいのか、ぜひ市民の意見も聞きつつ一度議論されてはどうでしょうか。 ・独自のアプリは運用コストに見合う成果が見込めるか、中長期的な観点からも御検討ください。
2	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> ・商圈エリアの拡大は現実的ではない。拡大することが目的ならば、魅力ある大型店(モール/大型ショッピングモール/ホームセンター)を誘致するのが手っ取り早い。 ・福知山城から広小路通り、御霊公園(神社)迄の回廊を光る個店のパワーで整備するのが足元の資源活用。まさに地域おこし街づくりの一步となると考える。
3	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・福知山市の魅力・長所・短所を今一度考える。 ・「ふくぼ」の必要性(「ふくぼ」にしかないものとは⇒正直paypayでよい=高校生等の若者への利点・ニーズがない。) ・利用者の変化ではなく、店の変化が最重要。なぜ市のキャッシュレス決裁を強化⇒市・個店の復興になるのか? ・商店街への活性化ですることへのメリットとは←チェーン店・イオン等の大型商業施設で生活が可能=商店街にお金をかける必要性。 ・ふくぼは若者の利用率が低いので、「ふくぼ」の使用場所を見ても若年層のニーズに合わないと思う。 ・オリジナルをつくる意味⇒パワーのある同系列の会社に押しつぶされるだけ。
4	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・要望に答えて金銭面で支援することも大切だと思いますが、お金を多く使っても人が来るわけではないので、商店街にある店の魅力が市民に伝わる政策も少し必要に思いました。 ・ふくぼで最大2万円で2万5千円分のポイントがもらえるというキャンペーンは良いと思うのですが、ふくぼが使えるという理由だけで商店街で買い物しようと思いきいと思います。 ・私は”商店街にしかない魅力”に注目すべきだと思います。例えば銀鈴ビル。中に入ったとき、たこ焼き屋さんや美容院がありました。そこでないと駄目な理由が少ないと思います。私もふくぼに力を入れるのはあんまり良くないと感じました。
5	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・市と福知山フロントの協力がとても重要だと思います。新たなものを1からつくり上げるのは大変だと思うけど、今の福知山にも魅力のある店はあるし、それらの店をもっと発信したり、ブランド化すると良いと思った。 ・また、ふくぼは私を含め周りでやっている人をあまり見たことがなくて、存在を知ったのもついこの間でした。私がふくぼを利用していない理由としては、個店であまり買い物をしないからです。ふくぼを利用する人の数を増やすのであれば、他の市の利用率を上げるのもいいと思いました。市民が積極的にふくぼを利用するのであれば使える店を増やしていくべきだと思います。そして、使える店の魅力を増やしていくべきだと思います。
6	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的に有名なキャッシュレス決裁ではなく「ふくぼ」を継続している理由があまり分からなかった。周りの高校生もふくぼを使っている人は少ないし、そもそもふくぼとは何なのか知らない子も一定数いる。 ・個店、商店街の魅力向上の課題に”若者が福知山に帰らない”ということもあったが、若い人を対象に活動するなら「ふくぼ」の在り方を考え直したら良いと思う。DXとは何なのか分からなかった。
7	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・重点としてキャッシュレス決裁「ふくぼ」が出てきましたが、それが商店街、個店の魅力にはつながりにくいという印象を持ちました。 ・私たち高校生は、難しいことは分からないけれど、素直に福知山の今ある魅力を広めていきたい、知ってほしいと思っています。その中で、新町商店街に携わりたいと考えています。福知山の魅力でもある落ち着いた商店街が廃れていくのは悲しいです。市民と協力して何かができると変わっていくことも増えると思います。

No.	所 属	主 な 指 摘 事 項 、 改 善 提 案 な ど
8	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・私は個人情報の流出等が怖く、Linepayなどは使っていないのですが、私の友人でも使っている人の割合が多いです。 ・一方ふくぼについてはあまり聞かないので、若者には使われていない、なんならそもそも認知されていないのではないかと思います。 ・話題に出ていた税金についてですが、もしそういう関連の事業につきこんで失敗してしまえば、それこそ税金の無駄遣いなのではないかと。税金にたよりすぎるのは良くないと思います。 ・我々消費者も、そもそも魅力を感じないと足を運ぼうとすらしません。市民のニーズや地域通貨の認知度、使いやすさなどを知るためにも、市民アンケートは必要だと思います。 ・今回このようなレビューに参加させていただいた中で、難しい言葉なども沢山でてきたのですが、福知山の魅力を広めたいという熱意がレビューを通して伝わってきました。我々の意見が役に立ってくれたら嬉しいです。ありがとうございました。
9	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーがいるというのは店と店をつないでまとめるということで良いと思ったのですが、リーダーに任せて改善するならいいのですが、具体的な対応を考えるべきだと思います。 ・しかし、実績のあるところと任せるということなので手段としてなしではないと思いました。少なくとも僕と親しい高校生はキャッシュレス決済しかしないということではなく、現金を使うことの方が多くいるので、ふくぼを利用した対応では大きな活性化は見込めないと思いました。
10	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・推進委員がおっしゃっていたように栄えているところから離れている、いわば空き地が多いところを重点的に活性化しようとするのではなくて福知山のブランドとして今栄えている周囲に力を入れていくことが商店街の魅力向上につながるのではないかと思います。 ・高校生の立場でいうと、ふくぼを使っている人はあまり聞かないのでpaypayにまかせてほかのことに税金を使ってほしい。
11	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣市町推計人口変動割合では、福知山は減少がなだらかである。行政（税金）の割合・民間の役割（自分の資金で事業を展開する）魅力を向上するためには、福知山独自の個店の魅力を向上させる必要がある。 ・キャッシュレス決済に目を向けるのはとても良いけど、paypayなど多く、広く普及しているものを使うことが多い。福知山独自のキャッシュレスアプリなどは他から来た人々がわざわざアプリをインストールする必要があるし、福知山全ての店で使えるわけではないので、消費者が困ると思う。でも、地元の人などは昔ながらの店に行くことができるのかなと思った。
12	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金をめあてに商店が努力していない感じ。 ・個店のリーダーを育てると言いながら、業者（民間）に頼っているような感じがする。 ・もう少し魅力ということで委員さんが言われるように地域資源を生かした取り組みがあればと思う。
13	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・人口、売り上げだけの拡大を目指すことだけが良いわけではないということが印象に残った。 ・丹波、綾部の魅力を磨き上げる。地域としての決済アプリをつくったことで、店が困ることがあまりなく、普段行かないような店に行く機会も増えると思ったし、一時的でなく引き続き利用できるのも良いと感じた。ふくぼの認知、誰もが使い始めようとする機会を設ける必要があるかと思った。利用が増えることで利用店も増えると感じたし、ふくぼ利用の店が増えることで、外部から観光に来る人も利用するようになると思った。 ・そのような人達が使うことでポイントや残高が残っていると、また行こうと思えるとも思った。チェーン店で使えて個人店でつかえないというのも課題。工場が増えると人口が増える。そこに力を入れて依存してしまうと、リスクが伴う。伝統的な店をどう生かすかをもう少し考えてみる必要があると思った。 ・魅力があっても認知されていないと意味がない。 ・高齢化も進んでいるので誰もが使おうと思えるような使いやすいキャッシュレスにすべきと思った。
14	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・ふくぼを利用して福知山で経済をまわしていく方針がとても良いと思ったが、利用者がまだまだ少ないと思う。 ・個店へのサービスとして手数料の支援などは税金を使っていくことになるが、税金にもかぎりがあるので、費用を支援する以外の政策をしておく必要があると思う。 ・福知山にもっと働く場を増やすことで福知山へ訪れる人口も増え地域活性化につながると思う。働く場があり、サービス業も充実していると自然に福知山がよりよくなると思う。 ・お店を新しく立ち上げるだけでなく、昔から受けつがれてきた来た伝統を魅力として発信していけばよいと思う。 ・個店はそれぞれの店の宣伝や魅力発信に努め、消費者側もふくぼを使うことで福知山が更に活性化させていくことができると思った。お金をかけずにできるだけ政策をしたらよいと思う。
15	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターの人も言われていた通り、消費者が何かするとかではなくて、商店街や個店の魅力向上という目標においては商店街や個店が人を集めるために魅力を多く発信していきターゲットを決めて活動していくのはすごく良いんじゃないかなと思いました。 ・また、福知山市にはチェーン店とかがたくさんあり、私も綾部から買い物に来るけど、やっぱり個店や商店街には行ったりしないので、そこでしかできないかという魅力を出していけば、そう簡単ではないけれど人も増えていくのではないかなと思いました。 ・また、自分たちも新町商店街の活性化を考えている中で、やっぱり学生を増やしていくこともすごく大事だと思います。だからこそ、自分ももっと考えなおして活性できるように考えようと思いました。
16	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少や少子高齢化が進んでいる社会の中で活性化していくためには若者を集めていくことが重要になってきてイオンなど若者に人気のあるお店をたてるのが有効かと思われるけど、福知山の魅力をいかし、向上させていくことが大切だと気付きました。 ・最近ではpaypayなどのキャッシュレス決済を使う人が増えているなかで地域通貨のふくぼを導入したということは消費者に負担をおわせているという意見には納得しました。ふくぼを導入することによってキャッシュレスの便利さなどを高齢者やキャッシュレス決済を導入していなかったお店が気付くきっかけになるという点では良いことなのかなと思いました。これをきっかけにpaypayを導入するなどして福知山に来てくれる人を増やしていき、活性化を進めていくことが大切だと思います。
17	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふくぼ」の宣伝をもっと増やしていくべきだと思います。「ふくぼ」などのスマートフォンを使うサービスは高齢者などは使いにくく、若者にしか使えない。その上で、少子高齢化の進んでいる現在、利用を増やしていくのは難しいと考えます。

No.	所 属	主 な 指 摘 事 項 、 改 善 提 案 な ど
18	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街に行く理由がない。ふくぼは25%のときしか使っていない。Paypayを今使っている。 ・福知山独自の強みを活かしてもらいたい。 ・地域通貨の普及は難しいと思う。地元の良さをあまり知らない。
19	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・市民（消費者）ニーズを調べるのが大事である。店舗のアンケートを具体的に聞く⇒現状、将来へ⇒自分の店の魅力は何か。市民に受け入れられるか。⇒市民の意見を聞くこと！
20	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前商店街・広小路商店街の空き店舗の活用及び活性化→観光産業と一体となった施策→福知山城下町としての町づくり（モデルは彦根のキャッスルロードや犬山城下町のような商店街） ・SNS映えとインバウンド客の取り込み→例えばグルメコンテストを催し福知山ならではの名物グルメを作り売り出す。できれば、食べ歩き出来るグルメを作る。（例：近江牛コロッケなど） ・各店舗はテラス席を設ける→観光客を含めた犬連れ客を取り込むために犬連れOKの店を増やす→ワンコに優しい町づくり→地元のペット連れ増加を図る。 ・福知山市ならではの商店街作り→城下町としての街並み、SNS映えするグルメやスイーツを生み出し、売り出してアピール政策。休日に商店街を歩行者天国にし、イベントの実施→イオンなどの大型店とは違う個店の個性や魅力を作り出す。
21	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・委員の方の意見のとおり、魅力度は消費者が決めるものだと思います。独自施策だけでなく近隣市町との連携も有効だと思います。
22	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・福知山の規定が出来ていない。特に福知山ブランドでお金が回るしくみが考えられていない。 ・ふくぼのターゲットがしっかりと設定されておられない。個店の魅力が伝わらない。 ・税金の役割。エビデンスの蓄積が必要なのではないか。市職員が個店の掘起をしに歩けていない。一次統計分析の上でしか、考えられていない施策である。
23	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・DXによる分析ができていないので、計画が抽象的なのでは～改善推進委員の質問に答えられていない。 ・エリアアメジメントの分析にDXを生かす必要有るかと思えます。そもそも政策目標にDXを生かすと有るが活かされていない。 ・補助金が多い。税金を活用している認識が薄いのでは？ ・ふくぼのポイントは税金ではなく商店が負担すべきでは？運営費用も。～効果が見えないからこの様な議論になる。ふくぼで客が増えたのでは。 ・福知山の良さを再考すべきの意見には賛同。 ・もっと素直に改善推進委員の意見を聞くべき
24	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・後継者に対する相続支援は行っているのか？ ・ふくぼ2%バックでは、さとうの「あいポイント」より少なすぎる。それよりは商店街と駐車場を直接つなぐ事業を行ってほしい。 ・『商店街の維持(魅力向上)』に特化したほうが良いと思う。 ・個店については8-2-2でカバーしてほしい。（議論が8-2-2とまざってる。） ・『都市圏からの観光客に対応』することを目的にするなら、キャッシュレス導入支援のほうが効果高いはず。
25	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・ふくぼの利用者が若者より高齢の方の方が多いという件について、①ポイントをもらうために支払うべき金額が高いこと②使用できるお店が限られていること。若者にとって魅力のあるお店でポイントを使えないことなどが理由にあげられると思いました。 ・私はカフェ利用をよくしますが、選ぶときは福知山の農産物を使っていたり、何か福知山の魅力を発信しているところというところをポイントに選んでいるし、他市から遊びに来た人をつれて行くときも福知山の良さがあるところへつれていきたいと思えます。 ・電子マネーの使いやすさとしては、paypayなど、広くつかえるものの方が使いやすいので、今のままではふくぼの利用者は増えないし減っていくのではないかと思います。
26	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・Iターンなど三丹地区以外の自由な考えを持つ人々を集めては。 ・ポップランドを広小路に持って行き、商工会の地上に店、通路、店と巾の広い長い新地を作り、公園化する
27	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・流通量の多いキャッシュレス決済の活用を進める方針に賛成します。決済方法の運営の指導手間はpaypay等でも新規ツールでも同じと思われれます。 ・税金を投入することでどこに利益があるのか、それが公益に直接結びつくのかどうかを考えると疑問を感じます。
28	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・市として資金を出しているのみ。市がどの様になっているかが不明。※各自治体への取組でもその様な事例が多く有る。 ・市として現実を調査していない。甘いと思われる。 ・ふくぼ全年齢で使用できる？使いこなせないと思えます。 ・市民目線での対応が必要。着地点が見えない。

基本政策：市民一人ひとりが、時代の変化を先取りし、地域産業の発展に貢献できるまち

政策目標：DXを生かした商業・サービス業の活性化

施策名：8-2-2 市の特質を踏まえたキラリと光る観光戦略の推進

担当部：産業政策部

改善シート項目	議論結果							
	施策改善推進委員挙手数			施策改善市民パートナー				
I 政策目標の実現に向けた施策の取組について	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない		
課題が明確になっているか	0	1	3	7	8	5		
取組の方向性は合っているか	0	1	3	3	7	10		
施策を構成する事業の重点付けができていますか	0	0	4	0	12	8		
II 施策の有効性について	1 有効である		2 有効でない		1 有効である		2 有効でない	
政策目標の実現に向けた施策の有効性	0		4		4		16	

No.	所属	主な指摘事項、改善提案など
1	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> ターゲット・ストーリーが不明確 市内観光、市外から分けて考えた方がよい
2	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> DMOの分担金含め、一度予算を最低限に削減されて、どのような影響があるか無いかを検証された上で本当に効果のある施策にしぼって、民間でできること、自治体でできることを一度整理されても良いかと思えます。 ターゲット層の優先順位づけもぜひお願いします。ex. ビジネスマンの出張、京阪神、修学旅行、インバウンド等
3	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> イベント依存型の誘客策に終始していないか？（大河ドラマ、食、鉄道 etc） 足元の資源の掘り起こしに注力すべき。近き者喜ばば遠きより来たる⇒感幸<観光>
4	高校生	<ul style="list-style-type: none"> 福知山のまだ知られていないスイーツのお店とか、お肉のお店って言われていたんですけど、高校生でずっと福知山に住んでいるけど、全然知らないから、まずは福知山の人に知ってもらわないといけないんじゃないかと思った。
5	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ターゲットがどの年代かによると思うけれど、SNSを利用した情報発信をより活発？にできたら良いと思う。
6	高校生	<ul style="list-style-type: none"> 課題や問題点だと思われる部分がわかりやすくそれに対するかえしも適切だったように感じました。しかし、はじめて聞いた人などには少しわかりにくいように感じました。はじめて聞くような言葉もあったのでそこをもう少しわしくお話してほしいと思いました。
7	高校生	<ul style="list-style-type: none"> スイーツの福知山と言いますが、やっぱり大阪などの大都市にあるスイーツに比べると、スイーツのため福知山に行くというのは少ないのかなと思います。 また、福知山城を福知山の象徴のように言っている感じがして、初めて福知山に来たような人は福知山城に行くと思います。でも、一度城に行ってみたとき、物を飾ってあるだけで、あまり楽しくなかったのもっと城で一般的でなく、常時開催されていることを増やせばよいなと思います。
8	高校生	<ul style="list-style-type: none"> 結局福知山にある唯一無二のものを使って観光客を増やさないといけないと思う。正直、山の京都って言って自然がきれいだとか言ってますけどこの福知山以外にもきれいな山などがあると思うから、やっぱり僕は、もっと福知山城をよりよいものにすればいいと思っています。 でも、明智光秀はいろんな人が知っているかもしれないけど、光秀さんが築いた城が福知山城っていうの知らない人が多いと思います。（教科書にも、人名はかかっているが城の名前はかかれていない気がします） それなら、太秦の映画村みたいに例えば、手裏剣をなげるなどの体験型のアトラクションがあればと思います。太秦よりも福知山の方が車が少ないので、危なくないと思います。正直申し訳ないですが、小さなこどもは、かぶとを見るよりも体験の方がいいから今のままではこないと思います。あと、イルミネーションっているかがわかりません。
9	高校生	<ul style="list-style-type: none"> 鉄道のまちで推していくのは難しいと思う。市民でも福知山＝光秀・スイーツ・肉のイメージが大きくて、鉄道のイメージは正直ないし、新しい鉄道館に行く人も少ないと思う。 ホテルに福知山のパンフレットを置くだけでなく、地域の飲食店のクーポンをつけて渡すようにするのはどうか。 駅周辺の食のイベントは高校生や家族連れの人も多く来る(市内・市外どちらからも)ので頻度をもう少し増やしてもいいと思う。 交通の便はいいのか…？車だと京都市内から直接高速では来れないし、体験型観光コンテンツも大江・夜久野が多いと思うけれどそこまで行くのは福知山市街からちょっと離れるし…

No.	所 属	主 な 指 摘 事 項 、 改 善 提 案 な ど
10	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・課題と施策がかみあっていないと思った。 ・まずは地元の人に福知山のよさを知ってもらうことが大切だと思う。観光地の位置もバラバラで遠いし、観光しにくいと思った。 ・16年間福知山に住んでいるけど、なかなか福知山の良さが分からないので、地元の人が福知山の良さをもっと理解することが大切だと思う。
11	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・お城の回りを回遊してもらえるルートを構築するのは、観光客をさまざまところへ行ってもらいやすくなると思ったけど、もっとパンチがあって、「福知山へ来たなら行きたい」と思えるようなモノにしないと、知らずに帰ってしまうと思った。 ・そこにあるモノ1つ1つを見ると、福知山ならではかもしれないけど、他の地域には負けてしまうし、天橋立など近隣の観光資源に埋もれてしまうなどと思った。新たな資源をつくるばかりではなく、今あるものの魅力を発信し、もっと充実していくべきだと思う。 ・都会にはない豊かな自然や、夜にしか見れないすてきなホテルや星空があるので、それを見れる場所への交通網を充実させて、そこへ行きやすくすると、もっと魅力が伝わるし、体感してもらえと思う。市街地よりも少し離れた夜久野・大江・三和のほうが、京阪神の人にとって魅力的なんじゃないかと思った。
12	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道系施設を求めてわざわざ福知山市に足を運ぶ人なんて少数派だと思う。京都市内にも同系統の施設もあるし、その他にも京都市の方が魅力があるし、よっぽどの魅力がないと続かない施設になるのではないかと思った。 ・福知山市には私にはりピーターが生まれにくい町だと感じた。年数回行われるイベントも、そのために来て、ついでに市内を楽しむとういうような感じになっているように思っている。また観光施設としても1度行ったら満足、初めて行くから楽しいみたいな施設が多くあると個人的に感じてしまっている。
13	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・福知山の魅力と聞いても食があったり自然があったりしますが、あまり突出して魅力と言えるものはありません。 ・何に重点を置いているのかわからず、何を発信しているのか分かりません。例えば、鉄道などは市民にも関心が低く、市もPRができていると思えません。 ・あと、今の福知山は観光地へ行くための場所になりそうなのに鉄道をPRするのは大変だと思います。
14	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・広域での観光戦略で福知山が通過地点であっても、もう少し福知山を知ってもらう戦略を続けて分析をしていく必要があると思う。来福してもらう前にもっと福知山を知ってもらうリピーターを増やす努力方策を考えていくことが必要だと思う。
15	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・ANAとの連携を活かしきれていないように感じます。Tochi-Dochiなど場の提供があるのでもったいなく思います。 ・政策目標として「DXを生かした…」とありますが、従前と変わらないように感じます。デジタルコンテンツとして訴求力のあるプロモーションはできていないのでしょうか？ビジネスホテル中心で、滞在型宿泊施設がないのも残念です。
16	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・本市は魅力のあるコンテンツがあるのですが、個々がまったく連携していないので、連続して観光しようと思えないと思われま。これらを歴史的背景、類似性を用いての「まとめる」ということがなされていないので、足をとめて福知山観光をしようと考えてもらえていません。 ・TV等のマスメディアを活用してアピールする活動がのぞまれます。鬼という連携、歴史的史跡という連携などをとって、巡回する提案をしていただきたい。
17	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・福知山のアピールについてはSNSを利用し拡散を図る。(例. インスタでフォトコンテストを実施。#福知山を付けて発信) ・観光客のターゲットにインバウンド客も含め観光客の増加を図る。福知山城公園の整備を図る→福知山城公園駐車場を移転→ゆらのガーデンの飲食店を増やす。(例として熊本の櫻小路や伊勢のおかげ横丁を手本とする) ・SNS映えするスポットを作る。(例. 福知山城公園や福知山駅北口公園にFUKUCHIYAMAのモニュメントの作成) ・福知山城下町としての町づくり。広小路通りや駅正面通りを彦根のキャッスルロードのような町並みにする。 ・施策がすべて中途半端である。
18	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・もっとアピールが必要である。たとえば、福知山出身の千原ジュニアを利用して、福知山での行動(名所、食べ物等)1年間SNS等で流す。1年間テレビ(主要テレビ→毎日、朝日、関西、よみうり)で取り上げてもらう!! ・また、現在のテレビは番組費用をかけない状態なので、地方の人物(名人)なり食べ物(めずらしい)の紹介が多くなっている⇒テレビ局の売り込みがもっと必要でないか!!
19	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・福知山の食の規定や特性が見えない。何を売り、誰をターゲットにしているか。京阪神は地区では人物像が見えない。認知していくのに物語性を感じられない。 ・海の京都と森の京都の関係性の中に福知山の特性が見えない。交通の要衝の概念が古く、幽霊にしがみついている。
20	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・ターゲット層の絞り込みが甘すぎる。ビジネス作業者は、宿泊先で「食べる」のがせいぜいでは？お土産コーナーですら買う人は少ないと思う。 ・駅北観光案内所はお土産にしかすぎないと思っている(観光情報ば紋切型で、深みがない)内宮の案内所のほうがしっかりしている。 ・駅北にも対話者を置かれては？あと福知山城かゆらのガーデンで。 ・観光のターゲット層をもっと絞り込んでほしい。交通手段は「何」を想定しているのか？JR？マイカー？
21	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・サードプレイスツーリズム活動は良いと思いますが、知らなかったアイテムが沢山有り、驚いています。 ・福知山の魅力が明確でないで、この五年計画で実行すべきだがそこが見えない。(長期計画と短期計画作成しては) ・改善推進委員の発言に対して受け入れられる事。今は無理で将来対応できる事を考えるべき。反論が多い。 ・消費額減少はコロナでは？この分析がないと議論できない。 ・道の駅を創り、野菜、お土産売り場作り消費アップ。 ・東京の展示会の効果は？
22	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・他府県よりの集人もどう対応するかが重要と思うが、市民全体の思いを聞く事も必要。
23	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・今までにもプラスの売り上げを見込めていなかった鉄道関係の分野に、なぜたくさんのお金をかけたのか、赤字にならないようにどういう取り組みをしているのか、疑問に感じます。
24	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・観光はポツポランド以外は、今の取組で良い。 ・日本の人口の高齢化は止められず、観光客の増はむずかしい。総花的で市民の受けは良いかもしれないが、それよりは働く人の収入増、少子化対策、若い子供連れの人々の幸福感を出せる事。

基本政策：市民一人ひとりが、時代の変化を先取りし、地域産業の発展に貢献できるまち

政策目標：稼ぐ力のある農林業の確立

施策名：8-3-1 スマート農林業及び稼げる農林業、環境にやさしい農林業の推進

担当部：産業政策部

改善シート項目	議論結果							
	施策改善推進委員挙手数			施策改善市民パートナー				
I 政策目標の実現に向けた施策の取組について	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない		
課題が明確になっているか	4	0	0	11	3	0		
取組の方向性は合っているか	3	1	0	8	5	1		
施策を構成する事業の重点付けができていますか	4	0	0	6	5	3		
II 施策の有効性について	1 有効である		2 有効でない		1 有効である		2 有効でない	
政策目標の実現に向けた施策の有効性	4		0		11		3	

No.	所属	主な指摘事項、改善提案など
1	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> 全ての農林業、農地を維持しなければいけないという前提での予算配分、重点領域への戦略的投資は難しいと感じました。捨てる領域も出てくることも致し方なしなのではないでしょうか。 農林業の効率改善は個々のやり方を引き継ぐだけではなかなか望めず、スマート化の取り組みは継続していただきたいと思います。民間の力も活用してください。
2	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> スマート化に福知山の特色を出してはどうか
3	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> 課題認識とメリハリの効いた施策優先順位付けによりめざす方向性がスッキリしている。集中と選択が明確。
4	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> 「ふくちやまのエエもん」の全国周知（PR）について、ふるさと納税での情報発信をもっとしてはどうか。返礼品にチラシを同梱する、ふるさと納税サイトの品名に添えるなど。 お金をかけずに少しでも全国の消費者の目にとめるための取組は、多ければ多いほどよいと思う。 スマート農林業は「予算がないからできない」ではなく「限られた予算で最大の効果を出すにはどうするか」を考えていただきたい。
5	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ブランド化による名前だけではないが名前も大事だという意見に共感できた。これらの取り組みは時間がかかると感じました。 農業系の事業は時間がかかるので、これからも継続することが必要だと感じました。
6	高校生	<ul style="list-style-type: none"> 福知山の加工品、お米を含んだ「ブランド化」を進めていく対応に対して、山内様の「各県でブランド化の競争が起きている中で、差別化を図ることが必要だ」という意見に、私はとても共感しました。施策の取組はとても有効であると私は考え、地元の人々と産業の目線から見た農林業について理解を深め、市の理想が実現できれば良いと思う。
7	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> スマート農業等、市役所主導で対処できるのでしょうか？民間との住み分けはどうなっていますか？ 大企業稲作の具体的な方策はどうなっていますか？耕作地を守る為の稲作なののでしょうか？→稼げる農業と耕作放棄地対応と分けるべきでは 高地では野菜を道の駅で販売しています。その様な場所提案をすべきかと思います。（利益出てます） 農業政策が人口減少でどうなっていますか？～5年、10年後のプランが見えません。 米のブランド化～”自然で育った米”（おだやかな農業）～改善推進委員の意見に賛同 綾部の農業大学校を活用しては
8	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> とてもわかりやすく興味深く聞くことができました。ICT化が進んで就農者が増える環境整備に期待したいです。
9	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> プロデュース人材が必要ではないか。1次産業から6次産業を合わせていくことが大事のような感じがする。
10	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> 商店と同じように米や野菜でも市民がおいしさを味わう場や発信していく必要があると思った。何でもかんでも補助金を出して守っていくのではなく、自助（自分で頑張る力、考える力…）の力をそいでいくのではなく、重点的に考えていくほうが良いと思う。

No.	所 属	主 な 指 摘 事 項 、 改 善 提 案 な ど
11	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・森林は別として農業の方向性はJAにのくにと同じ。福知山市の特産は何・万願寺唐辛子は京都のもの？話の中に他人任せ的な発言が目立つ（～にやらせませすとか） ・農林業で市がつながらない、農業はJA、林業は森林組合、市は何をしているかわからない。※スマート農業の中で、市としてカーボンニュートラルの話もある。2つを1つにして取り組みは？ ・1人で持つ、農地が小さいのでなかなか稼げることにならない。現状、土地を持っていても農業はしない人が多い。 ・JAの総代をしているので状況はある程度知っているの、意見を言われた方の気持ちはわかりますが、市の方向性が市民に知られてないので、JAに頼る部分はある。農産指導は市はしない。JAはしていただける。※農家の話しをもっと聞いてください。
12	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の8割以上が補助金事業で、これは「継続支援」では。新規就農支援すら補助金事業では変化は起こしにくいと思う。 ・主要6事業すべてが国府補助事業。市の独自性が発揮できないものを主要に据えるとはどういうことか。 ・新規就農で一番大きいのは「空き家バンク（ストック事業）」や「お試し住宅」ではないかと感じています。
13	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・ブランド化とは「品質のブランド」と「インパクトのブランド」があると考えます。品質が飛びぬけているとしても、宣伝によって「多くに知ってもらってブランドになる」事例はあると考えます。 ・テレビ等のマスメディアを利用してブランド化できることもあると考えます。「福知山〇〇」という売り方はできるものでしょうか。農家がする作業と行政がする公報を意識して分業する必要性があると思われます。品種改良は難しいので、まずはできる工夫からはじめてほしい。
14	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も福知山ならではの特色のある製品の発掘を続けてほしいし、魅力はSNSを活用して発信してもらいたい。 ・スイーツのまち福知山を代表するスイーツを是非開発し、アピールしてほしい。
15	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・福知山産の農産物、お米などが学校給食などで使われているというのは、地産地消の観点で良い取り組みだと思いますが、福知山の農産物を選ばれるようになるにはもっと工夫が必要だと思います。 ・ここの農産物を選ばれるようになるには、SDG s 達成が目指される時代なので、環境に徹底的に配慮した有機農業に力を入れて、ホテルやコウノトリの保全にもつながっていることをアピールしていく必要があるのではないかと思います。有機農産物を作ったときに、必ず買ってもらえるルートがあればチャレンジしてみたいと思う人も増えると思います。
16	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・昔からの自分の農地を守ることが第一である。（地元、自分達で） ・今後は、昔の百姓（苦しい時代）ではなく、笑いある楽しい農業（みんながやりたくなる）になればありがたいと思う。 ・地区内では若い人（農業に関心がない）と話し合いが必要である。継続することが大事である。
17	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・集約？旧3町で長い水路の場所は、作物をやめ、水路の短いところ、補修の少ないところへ集約されつつあります。 ・温暖化が進み、阪神地区の7割ができるのか、9割が作れるか、旧三町の10割が作れるか。でも農家が少なすぎる。

基本政策：市民一人ひとりが、時代の変化を先取りし、地域産業の発展に貢献できるまち

政策目標：稼ぐ力のある農林業の確立

施策名：8-3-2 有害鳥獣対策の推進

担当部：産業政策部

改善シート項目	議論結果							
	施策改善推進委員挙手数			施策改善市民パートナー				
I 政策目標の実現に向けた施策の取組について	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない	1 そう思う	2 どちらともいえない	3 そう思わない		
課題が明確になっているか	4	0	0	13	0	0		
取組の方向性は合っているか	4	0	0	13	0	0		
施策を構成する事業の重点付けができていますか	4	0	0	10	3	0		
II 施策の有効性について	1 有効である		2 有効でない		1 有効である		2 有効でない	
政策目標の実現に向けた施策の有効性	4		0		12		0	

※どちらでもない1名

No.	所属	主な指摘事項、改善提案など
1	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> データ分析によって適確に運用されている。防除、捕獲が一定範囲内に収まることにより、執行予算額を減らすことも可能になる。 根本的には野生動物の住環境（山林、雑林）再生も必要。
2	推進委員	<ul style="list-style-type: none"> ご担当者の説明がファクトベースで、とてもわかり易かったです。勉強になりました。ぜひ市民の皆さんに取り組みや現状についてのPRを積極的に取り組まれることをおすすめします。 多くの方が関心を持ってより自分事として行動をしてくれると思います。
3	高校生	<ul style="list-style-type: none"> 駆除数を増やすために報奨金の設定をしているとあったけど、それ以前に免許の取得時や罠の購入時の補助金を設定することが大切だと思います。 外来種の動物（アライグマ・ヌートリア）の生息/被害/駆除情報が閲覧できるようにしたり、存在を広めることが必要だと思います。
4	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> つい最近ここ2、3年猪は出なくなっているが、鹿については今年は前年より増え、実際家の前、後ろの畑に雨あがりによく出て葉を食いあらししている。鹿の頭数は、地域や場所によって違い総頭数が減ったからといって食害が減ったと言えないと思います。
5	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> 攻めの姿勢だけが突出している。ホカク105：防除2 予算配分 害獣から作物を守る防衛線なのだから、防壁（柵）の設置にもっと予算をかけるべきでは？（フェンスダイヤ業者） 単純にコストパフォーマンスも悪い。ホカク105：被害27 年間処理数も処理場のキャパを超えてる（2倍超え） R4 8621/4205 捕獲圧は「頭数管理」として環境戦略課に一任し、農林業振興課は〔防除〕事業にもっと力を入れてはどうか。 そもそも、R9上川口のあたりでも鹿の死体が転がっている。 捕獲圧自体が有効に働ききれていないと思われるので、捕獲事業は飽和しているように感じる。 電気柵の運用リーダー（巡回員）を選定する必要があるのでは？ ここ近年は鹿が人なれ（というかナワバリ認定？）している感が強い。一定の条件下であればリョウ銃が町中でも使えるように市の立場からも働きかけてほしい。 夜久野町の下夜久野駅～日置にけてよく熊が出ているようですが、地域の人たち（特に自治会長）からの要望は出たりしていないのか。 また、要望があるならば、どのような要望を言われているのか公表してほしい（課HPのPDFで構わない） 「シカやクマとのナワバリ争いをしている」という認識で事をすすめて欲しいです。
6	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> イノシシの持つ病気やダニが養豚場の豚に移るとあるということを初めて知りました。 理想としては、動物が山から出てこないで良くなるような、山の管理が必要なのだとわかりました。
7	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> 稲を作る田の周りに鉄のメッシュで囲うのですがその足元の草刈りをしないとススキが生え、その間の空間にクマが居ても分からない。そのように田富と山の境が茂みになると、横を通る道などは、キケンです。 クマがメッシュの柵を壊して横向きにして、その上をクマが渡って行、その柵を治す人手も金も集まらない所もある。
8	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> 有害鳥獣対策として申請すればワイヤーメッシュなど支給してもらえらるが、何件か集まらないと無理ということですが1件単位で対応できな。

No.	所 属	主 な 指 摘 事 項 、 改 善 提 案 な ど
9	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・ダニ、ヒルの問題は喫緊の課題かと思えます。その認識が有り安心しました。 ・鹿が住宅地に来るのは、里山の整備の問題もあるのでは？林業対策との連携を図る必要があるのでは？ ・兵庫県立大学との連携に依る費用対効果はどうなっていますか？（1300万円） ・対策費用合計2億円と被害額の対比は必要
10	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・シカを「ゴミ」的にすててしまうのではなく、肉はジビエ料理として有効活用していただき革については衣料用として活用できるのではないのでしょうか。 ・シカ革は牛革に比べると弱いですが柔らかいため衣料用、手袋として良い革です。なめし作業はいりますが、加工は四国で多く行われていますので、国内消費が可能と思われます。
11	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて知った課題であり取組状況がわかりよかったですと思えます。
12	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・広報について、福知山市のLINE等リアルタイムで発信されると認知度が高まるのではと思えます。 ・広報誌では情報が古くなりますし、HPではアクセスしにくい煩わしさがあります。
13	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・棚田や水田で柵をすると、美しい日本の風景がなくなるのでないか⇒田、畑、人を守るために必要なのか⇒検討すること！！ ・ジビエの活用を考えてほしい！！ ・集落での取り組みが一番大変なので（草刈り等） ・すみわけ大切なので山の管理も必要でないか
14	市民パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・イルカ観光のような観光資源にはならないのか。 ・セーヌ皮などの活用はないのか？

基本方針	No.	取組項目	担当課	めざす方向	実施内容	指標			令和4年度の取組状況		令和5年度に向けての取組			
						現状値 (2021年度)	目標値 (2026年度)	R4年度 指標実績値	取組実績	令和4年度末 課題事項	令和5年度 取組事項	令和5年度 目標値		
1 価値共創によるパートナーシップの推進	1	民間が強みを発揮する分野の委託・アウトソーシングの推進	資産活用課	「公民連携(PPP)により、民間事業者の知識や技術・資源等を活用した地域経済の活性化や行政の効率化	PFI、指定管理者制度、公設民営(DBO)方式、包括的民間委託など一定の性能を求めるが、具体的な業務運営は民間側に任せる性能発注方式により、民間の知識や技術、資源を活用し、公共サービスの質の向上を図る	【指標1】公民連携による取組事業数	144件	→	150件	149件	未利用公有財産の活用について ・民間提案制度専門部会:4回 ・北都信金と連携した事業者向け説明会:1回 施設管理に係る包括的民間委託 ・包括民間委託専門部会:2回 ・導入に向けたサウンディング調査:1回	・廃校活用をはじめ、各施設の状況に応じた公民連携事業に取り組んでいるが、令和4年度の民間提案制度専門部会でのヒアリングから、施設所管課において未利用公有財産の活用メリットが見えにくいことを把握したため、部会への参加や取組に係る意欲向上を図る。 ・本取組が本来めざす姿に向けて、全庁的な動きを起こすための課題として、公民連携(PPP)に取り組むにあたり、新たな知識の習得が必要になるとの思込み等があると思われる。	・令和5年度の専門部会では、60~90分程度の短時間の専門部会を複数回開催することで施設所管課の担当者が参加しやすくなる。 ・全職員が閲覧する掲示版での掲示や勤務管理システムのアンケート等を活用し、取組にかかる意欲の維持・向上に取り組む。	151件
			経営戦略課	提案型公共サービス民営化制度による市事業の効果・効率性向上と、公共の担い手を育成し市民協働によるまちづくり推進	ソフト事業を対象に、市実施事業で課題を抱えている事業や民間から提案を受け改善をしたい事業について、NPO等の市民団体や地域協議会などから幅広く提案を募り、新たな担い手の育成及び事業改善を行っていく	【指標2】提案型公共サービス民営化制度による委託事業数	-	→	8件(累計)	3件	・市ホームページで市民団体等からの提案募集を実施 ・外部有識者等による審査会を実施の上、提案5件の中から3件を委託事業として採択	・主に市が取り組む事業を対象として、「民間の強み」を活かした事業効果を高める取組であることから、当該制度に対する各課の理解を広く、市民団体等と連携した取組につなげる必要がある。	・制度概要に関する職員説明会の開催や、制度の取組状況について共有を図ることで、各課や職員から市民団体等への制度周知に繋げる。	2件
	2	大学やNGO・NPO、企業等との連携協定の促進	経営戦略課	地域課題の解決や市民サービスの向上、地域活性化などに向け、専門的知見を有する大学等の機関と連携・協働し、その知見やノウハウを市の政策決定や事業運営に生かす	個別協定、包括協定を問わず、目的や具体的な取組事項を定めた連携協定を締結し、着実に取組を進める。なお、協定締結後も、協定に基づく取組事項について締結担当課で取組状況をとりまとめ成果検証を行う。	【指標1】連携協定の締結数	15件	→	20件	19件	・連携協定の取組状況について、各担当課へ取組状況について調査を実施	・各協定の取組の進捗に合わせて、まちづくり構想などの関連計画との整合性を確認する仕組みが必要 ・各協定に基づく取組で得られた知見、ノウハウを市の政策決定や事業運営に生かすことが重要	各協定の主管課に、成果検証を実施させるとともに、各協定の取組内容を認識してもらうための働きかけとして、経営会議で進捗で報告を行う。	19件
			大学政策課	公立大学とは情報技術、社会科学の分野において、「福知山モデル(※)」による大学連携を深化・展開させ、本市行政サービスの質的向上に向け連携を深める	公立大学とは、協定による連携のほか、ICT教育の推進、生涯学習講座、情報人材育成など引き続き、市実施事業との連携を強化する	【指標2】福知山公立大学と本市の連携事業数	18件	→	30件	23件	・公立大学情報学部の知見を活かしたデジタルに係る講座を小中学生～シニア世代の幅広い年代を対象に実施 ・市が主催する高校生・大学生を対象としたまちづくり事業の講師、コーディネーターとして、公立大学の教員及び学生が参画することにより専門的かつ活気のある事業を実施することができた。	令和4年度から大学内の付属機関である北近畿地域連携機構に、相談窓口としてリエゾンオフィスを設置し、主に窓口相談があった課題について大学の知見で対応を行われたが、大学以外の地域の企業や団体などのノウハウを活かすなど、地域のあらゆる組織が連携できる仕組みづくりを進める必要がある。	オンラインも活用しながら産学公のつながりを拡大し、相互の情報発信、情報交換などを通じて新たな連携の創出につなげる。 また、個別の事業についても、より効果的な在り方について検討する。	25件
						【指標3】福知山公立大学との地域連携による研究成果を社会実装につなげた件数	0件	→	5件	2件	・公立大学が中心となり、北近畿地域の産学公の関係者が日常的に情報発信、情報共有を行える場として産学公連携組織「北近畿コラボスペース」を立ち上げた。			3件
	3	市民との対話機会や意見聴取方法の拡充	職員課	【市民との対話機会】 地域課題の解決や早期発見に向け、ICT活用なども図りながら市民との対話機会を意図的に増やす 【意見聴取方法の拡充】 既存方法に加え、ICT活用手法の検討など、多くの市民からの意見聴取方法の仕組みづくりをめざす	【市民との対話機会】 ・DX推進とICT活用で、事務作業を軽減し、市民と直接対話する時間を確保する ・実現に向けた当面の指標として対話の回数を設定する ・地区担当、業務に伴う地域訪問も活用し、担当業務や地域課題など市民と対話を行う 【意見聴取方法の拡充】 ・先進事例を研究し、ICT活用なども含め「直接・素早く」市民意見が行政に届く仕組みづくりについて検討する(令和6年度末まで)	【指標1】市民との対話を重ねた所属の割合	-	→	60%	69.40%	市民との対話を重ねた所属との割合について調査する前段として、市民との対話の機会を職員がどのように捉えているかについて調査を行った。	対話機会を通じてまちづくりの課題を市民と共有し、業務に活かすという認識を職員に浸透・徹底させることが必要	市民との対話機会を意識して増やし、地域課題の早期発見や解決、事業推進について職員へ意識付けを行う。	DX等による削減で生まれた時間を使って、市民との対話機会をつくることのできた所属の割合30%
			経営戦略課			【指標2】意見聴取方法の仕組の構築	-	-	2024年度仕組構築	-	意見聴取方法の検討(Dicidim導入済団体及び導入業者等との協議)	多くの市民から意見を聴取することについて、現状の課題を整理した上で、その解決方法として聴取方法を検討する必要がある。	庁内で意見聴取している所属の実態把握を行うため、調査を行い、その結果を分析した上で、聴取方法を検討する。	仕組構築に向けた調査
	4	オープンガバメント、オープンデータの推進	デジタル政策推進課	・市保有データをオープンデータとして公開し公共データの利活用を促進 ⇒新たな価値やサービスの創出を促し「住民参加・官民協働の推進を通じた地域課題の解決」、「地域経済の活性化」、「行政の高度化と透明性・信頼性の向上」に繋げる ・オープンデータ推進により、市民参加型行政による新しい公共の取組であるオープンガバメントを推進する	・市保有の公共データ作成は、オープンデータとしての公開を前提に、共通語彙基盤に基づきデータ作成・データレイアウトを標準化に努める ・オープンデータとして提供可能なデータリストを作成し公開する。 ・利用者から具体的な提案には、必要性などを検討したうえで、可能なものから順次オープンデータ化する	【指標】京都府オープンデータポータルサイトへの公開数	245セット	→	255セット	255セット	・データを持つ所管課に声掛けを行い、公開可能なものから公開 ・R4年度は市バスのバス停リストや位置情報を公開	データの公開・更新に手間がかかるが、データ公開の必要性和手順を今一度周知する必要がある(毎年データ更新依頼はしている)	府のオープンデータワークショップに参加するなど他市の状況を参考にしたり、データ所有課に声掛けをしたりしてデータの種類と数を増やしていく	256セット
			経営戦略課			【参考指標】オープンデータ利用件数	2件	→	7件	2件	利用されやすいデータを公開するように意識する	民間が求めるデータの種類の不明であるが、他自治体で民間利用されたデータ等を参考に、有用なデータを探して公開する必要がある。	民間が求めるオープンデータとはどのようなものか、利活用事例を参考にデータ公開する意識を庁内に持ってもらう	4件 (バス経路検索、公共駐車場)

基本方針	No.	取組項目	担当課	めざす方向	実施内容	指標			令和4年度の取組状況		令和5年度に向けての取組			
						現状値 (2021年度)	目標値 (2026年度)	R4年度 指標実績値	取組実績	令和4年度末 課題事項	令和5年度 取組事項	令和5年度 目標値		
2 DXの推進とICTを徹底活用した業務運営の早期実用化	5	全庁的かつ横断的なDX推進体制の整備	デジタル政策推進課 経営戦略課	<ul style="list-style-type: none"> 各取組項目を着実に進めるため、DX推進本部を設置する DX推進本部のもとDX推進員を育成し具体的な取組を進め、全庁的なDX推進に向け職員の意識改革を行う 急速な技術の進展や普及による環境変化が見込まれることから、DX推進本部において取組項目及び推進体制を柔軟に見直し具体的な計画を提示する 	<ul style="list-style-type: none"> DX推進体制を整備し、年間10名程度のDX推進員を育成(DX推進員の任期は3年) DX推進員は業務フローの見直し・標準化、行政手続きのオンライン化、RPAの導入等に取り組む。必要に応じて業務を設定しチームで業務の見直しに取り組む DX推進本部は進行状況を確認し評価する。取組事例で、横断的に実施可能なものは、推進本部より関係部署に導入指示。 遅延などの課題が認められる場合は対策を講じ、取組事項や組織体制の変更を検討する 	—	→	50人 (累計)	<ul style="list-style-type: none"> DX推進部会を設置 DX推進員の任命 10人 	<ul style="list-style-type: none"> IT推進本部の専門部会として、DX推進部会を設置要綱により立上げ 部長推薦により各部からDX推進員10名を推薦、任命の上、ITコーディネータによる研修に参加 	<ul style="list-style-type: none"> DX推進員は、任期3年で各部から任命されるが、任期中における対象職員の異動により、各部から選出される推進員の人数に偏りが生じる 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度に任命された推進員が別の部・課へ異動した際、当該推進員が取り組んだ改善対象業務を、前所属の職員が引き継げるよう事務局から各所属長へ働きかけを行う。 	20人 (累計)	
	6	業務フローの見直し及び標準化	デジタル政策推進課 経営戦略課	<ul style="list-style-type: none"> DX推進やICT活用に向け「業務可視化」、「業務フロー見直し」に取組み、仕事の質及び効率を高める 業務フロー見直しは、業務の目的や成果を再認識し、業務自体(前例踏襲)を見直す機会を上げ、AIやRPAを活用した業務プロセスの構築及びDX推進へ繋げる 	<ul style="list-style-type: none"> 各職員がサービス向上や効率化の観点から業務及び業務フローを見直し所属長に提案⇒所属長は取組項目8に繋がるもの、業務マニュアルが存在しないもの、長らく見直しを行っていないものから選定し所属全体で業務フローを見直す 見直しは前例踏襲や思い込みを排除し、新たな視点を加えゼロベースでの見直しを行うため、DX推進員を交えて取組む 	—	→	240件	<ul style="list-style-type: none"> 見直し提案: 20件 見直し実装: 3件 	<ul style="list-style-type: none"> DX推進員の研修を実施した R4年度は研修9回と成果発表会を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 所属長を中心に所属全体での取組となっていない DX推進員が業務過多でBPRに向き合う余裕があまりない 事務局の研修のゴールに対する周知不足 研修では業務フロー図と見直し案を提案するが、延長上で業務改善の実現までDX推進員に任せるのは負担が大きいため、「BPRの実現」は所属の業務として取り組むべき 	<ul style="list-style-type: none"> 所属を中心としてBPRを進めていく意識付けを年度当初から行う DX推進員の取組への理解とサポートについて、所属長への依頼を行う 提案されたBPR案の実現は所属の責任で進めることについて、部長級及び課長級への周知依頼 	40件	
	7	行政手続の徹底的なオンライン化	デジタル政策推進課	<ul style="list-style-type: none"> 行政手続のオンライン化を進め、いつでも申請できる環境を整える 申請データを各業務システムへ自動で取り込む環境を整備し、職員の業務軽減を図り、オンライン申請等による便利な窓口と対面による寄り添った窓口を両立したハイブリット窓口をめざす 	<ul style="list-style-type: none"> 「子育て世代」に関わる手続から優先してオンライン化を進め、全世代へと広げる 「国民の利便性向上に資する手続」を優先的に進める。本人確認を要する手続は「びったりサービス(国)」を、本人確認が不要の手続は「共同化システム(府)」を利用し、他のサービスの利用も検討する オンライン申請は、令和4年度中に所属利用実績100%(令和3年度:28所属)と「特に国民の利便性向上に資する手続」(子育て15手続、介護11手続)として選定している手続をオンライン化する 2026年度までに「申請・手続きナビ」(市HP)に掲載している手続のオンライン化を進める 	【指標1】国民の利便性向上に資する手続のオンライン化率	5.3%	→	70%	20.23%	R4年度は「びったりサービス」の手続きを有効化し、マイナンバーカードによる本人確認ができる手続きを増やした(びったりサービス又はLoGoフォーム、府共同システム R4末:40と13) ※市独自の手続きは262の分母に含まれていない	オンラインで可能な手続きが申請者から分りにくいため、webページ等からの入口を分かりやすく整備する必要がある。	オンライン申請をまとめて探せるポータル機の設置などを検討	30%
						【指標2】申請・手続きナビ掲載手続きのオンライン化率	5.4%	→	70%	17.39%	転入転出ワンストップサービスに対応したため、利用できる手続きが増加	オンライン申請が可能となった場合にリンクを手動で貼る必要がある 部署によって取組状況に差が見受けられるため、さらに周知が必要	「手続きナビ」のメンテナンス体制を整える 関係課への声掛けや、庁内への定期的な照会などを行う	25%
	8	AIやRPAを活用した業務プロセスの構築	デジタル政策推進課	<ul style="list-style-type: none"> マウスやキーボードを操作して行う単純・定型的かつ大量のデータ入力作業等を自動化⇒正確性の向上と処理時間の短縮化を図り、住民対話や企画立案などの業務へ注力できる業務環境を整備する 	<ul style="list-style-type: none"> 取組項目5,6と連携し業務フロー見直し中で、AI-OCRやRPA等による業務効率化を図る 定期的に勉強会を重ね担当者やDX推進員のスキルを高める 「導入≠目的化」に向け、事前の効率化(業務削減時間やミスの発生割合など)予測と、導入後の検証を実施する その事務の目的及び必要性を理解し、事務の見直しも含めて検討する 	【指標】業務プロセスでAIやRPAなどICT技術の活用を図った業務及び削減時間数	24業務 1,500時間	→	50業務 3,000時間	25業務 1,439時間48分	RPA、AI-OCR利用による削減対象業務数: 21 RPA、AI-OCR利用による削減時間: 788時間58分 その他事務改善(VBA等)による削減対象業務数: 4 その他事務改善(VBA等)による削減時間: 650時間50分	<ul style="list-style-type: none"> RPA、AI-OCRを業務利用した結果、所属での業務への取り組み方がどのように変化したか確認する必要がある。ただし着手時期が早い事例は、RPA、AI-OCRの利用期間が長かった分、所属の中でその利用が「あって当然」の認識になるため、所属側がRPA、AI-OCRの利用によりどう変化したかを認識しづらい傾向にある。 RPAを活用できる人材を組織内で増やす必要がある RPAライセンス数が1のため2ユーザ同時に利用できない 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度から新規にRPA、AI-OCRを業務利用した事例について、令和5年度から所属での業務への取り組み方(どのような変化が生じたか)ヒアリングを実施して行動変容の内容を確認する DX推進員の2年目の活動内容にRPAの活用を取り入れる RPAシステムの利用ライセンス数を追加する 	35業務 2,100時間 新規取組事例に対するヒアリングの実施率: 100%

基本方針	No.	取組項目	担当課	めざす方向	実施内容	指標			令和4年度の取組状況		令和5年度に向けての取組	
						現状値 (2021年度)	目標値 (2026年度)	R4年度 指標実績値	取組実績	令和4年度末 課題事項	令和5年度 取組事項	令和5年度 目標値
3 福知山市職員としての資質の向上	9	チャレンジ目標の設定や人事評価の見直し	職員課	・職員の自主性・挑戦心を育成することを目的に、自身が担当する業務又は市全体に係る業務の中で、現在より1段階上をめざし取り組むためのチャレンジ目標を設定する ・管理監督職は職員の「やる気」を引き出し、何事にも積極的に挑戦できる職場環境を整備する ・チャレンジ目標の設定と併せ人事評価制度を見直し、「やる気」のある職員が活躍できる場や評価体制を構築する	・一般職員の人事考課制度による評価内容に「チャレンジ目標」を導入し、令和6年度より本格運用を開始する (令和4年度～5年度は制度構築と試行運用期間)	【指標】チャレンジ目標達成率 — → 60%	86.2%	令和4年度一般職の人事考課調書にチャレンジ目標の項目を設けて、試行運用として考課を行った。	職員の「やる気」を引き出し、何事にも積極的に挑戦できる職場環境を整備し、指標以上の成果を出しているが、個々の目標設定や評価基準の検証が必要	・人材育成基本方針改定に合わせてチャレンジ目標の設定基準と評価ポイントの整備 ・人事考課制度の見直し	【指標】 チャレンジ 目標達成率 60%以上を維持	
	10	OJTIに重心を置いた職員育成と管理監督職の資質向上	職員課	【OJTIに重心を置いた職員育成】 人材育成基本方針、業務管理研修体系を見直し、多様化・複雑化する市民ニーズを把握し必要な対応を臨機に臨める人材育成に向けて研修体系を整備する 【管理監督職の資質向上】 全ての職員育成が適切にできるよう職場の環境整備を行い、管理監督職のマネジメント力の向上を図る ★職員が働きやすい職場環境を作り、メンタル不調で休職する職員ゼロをめざす。	【OJTIに重心を置いた職員育成】 令和4年度に福知山市人材育成基本方針及び業務管理研修体系を見直し、令和5年度から運用を開始。ついで、制度の再構築(令和4年度試行) 【管理監督職の資質向上】 一般職員アンケートで、求められる管理監督職像を明確にする ・職場内の風通しを良くし、組織の活性化を図る (職員アンケートは令和5年度末まで試行期間と、この間の実績で2026年度の目標値を定める)	【指標1】ストレスチェックでの高ストレスの割合 7.40% → 5%以内	8.8%	本人の希望があれば、産業医、公認心理士の面談を受けることができる環境を整えた。	職員の一体感がなく、業務過多で時間的余裕がないと感じている職員が多い。	職員の心身の健康管理やワーク・ライフ・バランスの取組みなど職員がその能力を最大限に発揮できる職場環境づくりをめざす。	ストレスチェック高 ストレス者割合 7.0%	
						【指標2】職員アンケートによる職場満足度(5段階評価の3以上) — → (仮)60%	仕事へのやりがいを感じている職員の割合70%	人事考課により、挑戦や努力を評価している。	職員の業務に対する二極化(前向き・後ろ向き)の傾向がある。	人材育成基本方針改定の中で、より求められる職員像を明確にし、一体感のある働きやすい職場環境づくりを目指す。	職場満足度5段階評価のうち3以上の割合50%	
						【指標3】時間外勤務の縮減 14.0時間 /1人・月 → 12.0時間 /1人・月	14.8時間	管理監督職に前年度実績の状況を共有して時間外勤務の縮減を図った。	管理監督職の時間外勤務命令への意識を高める取組が必要	時間外勤務の多い部署について、3か月ごとに状況を管理監督職へ共有し、再度、縮減に向けた取組みを促す	12.0%	
11	部課横断的な事業推進・自主研究チームの形成および活用	経営戦略課	【部課横断的な事業推進】 時代の変化を機敏に捉え、多様化・複雑化する市民ニーズを的確に把握し、事業の実施や課題の解決を図るため、柔軟に部課横断的な事業推進チームを立ち上げ取組を進める	取組項目14「会議体見直し」と併せ、部課横断的に結成される推進組織の取組状況、成果及び課題等を整理し、事業推進チームが効果的に機能する仕組みを構築する(令和5年度末まで)	【指標1】事業推進チームの仕組の構築 — → 2023年度 仕組構築	既存会議体の見直し	取組項目14「会議体見直し」の取組で、対象となる42の会議主管課に対して、実施状況等に関する調査を実施	42の会議体及び、その他のプロジェクトチームなど、現行の会議やプロジェクトの現状・課題を整理した上で、事業推進チームの立上げに係る仕組を構築する必要がある	取組項目14「会議体見直し」対象の会議以外に、その他プロジェクトチーム等についても、各プロジェクト主管課と今後のプロジェクトのあり方について協議を行い、整理を行う。 あわせて、事業推進チームが効果的に機能する仕組みを構築する。	仕組構築		
		職員課	【自主研究チームの形成】 職員自身の様々な問題意識や向上意欲により、自己研鑽に励む自主研究グループの活性化を図る	【事業推進チームの形成】 基本方針3及び取組15により、職員自身の課題意識に基づく自発的な事業推進チームの形成を組織として支援し、部課横断的な課題の早期発見及び解決、施策並びに事業の確実な推進に取組む 【自主研究チームの形成】 自主研究チーム(補助金支出対象チーム)の成果を庁内へ周知し、「やる気」のある職員の活動・活躍を応援する	【指標2】自主研究チームの成果公表件数 — → 5件	0件	令和5年2月の派遣職員成果発表会内で、活動案内を実施	自主研究グループの成果を業務に活かすための取組が必要	派遣職員成果発表会内での自主研究グループの効果的な成果発表の実施	成果発表件数 3件		
12	地域の諸課題を自分事として受け止め改善に取り組む人材の育成	職員課	・職員に対して、地域の実情を知る機会を増やし、地域課題の解決する能力を向上させる ・パラレルキャリアの活動を推進する	・取組項目10によりOJTIに重心を置いた職員育成と併せ、地域と関わりを深める職員の研修体系を確立する。 ・職場外での経験や人脈など、日常生活を含めたあらゆる事柄を積極的に業務に活かす意識や姿勢を育成する上で、パラレルキャリアの活動を推進するため、庁内向けに事例紹介を行う。	【指標】職員が行うパラレルキャリア活動件数 — → 400件	地域貢献活動を行う職員(過去の取組を含む) 269人	パラレルキャリアについて職員への周知が十分でなかった。	毎年、自己申告書記入時に地域活動・社会貢献活動について確認しているが、職員の取組の意識付けとしてタイミングが遅い	早い段階で職員にパラレルキャリアの案内を行い、活動の推進を図る	地域貢献活動を行う職員数 300人		

基本方針	No.	取組項目	担当課	めざす方向	実施内容	指標			令和4年度の取組状況		令和5年度に向けての取組			
						現状値 (2021年度)	目標値 (2026年度)	R4年度 指標実績値	取組実績	令和4年度末 課題事項	令和5年度 取組事項	令和5年度 目標値		
4 持続可能で質の高い行政経営の確立	13	「福知山市持続可能な財政運営の基本方針」の策定と財政4指標の健全性堅持	財政課	総合的な市政運営の指針である「まちづくり構想 福知山」に掲げる政策・施策を推進していくため、「福知山市持続可能な財政運営の基本方針」を定め、財政の健全性を堅持する	<ul style="list-style-type: none"> 「福知山市持続可能な財政運営の基本方針」で掲げる財政指標について基本的な考え方を示し、令和8年度の目標数値を設定し財政運営を行う 新型コロナウイルスや自然災害など緊急の財政出動が必要な場合もあることから、当該項目の最終評価は2026年度決算における財政指標により判断する 	【指標1】経常的な支出額	317.2億円	→	324億円以下	328.4億円	R4年度予算要求での経常経費シーリングの実施(行革期間前)、R5年度予算要求での経常経費シーリングの実施	<p>「経常的な支出額」については、行政の努力により圧縮できる余地が年々少なくなっている中、外的要因による増額圧力が高まっている。</p> <p>「公共施設等総合管理基金への積立額」については、公共施設マネジメントにより創出される土地も、公共施設マネジメントの取組の成熟に伴い、年々減少していく傾向にある。</p>	<p>「経常的な支出額」については、物価高騰等の動向を見据えつつ、市債の繰上償還や翌年度予算編成過程での精査などにより圧縮を図る。</p> <p>「公共施設等総合管理基金への積立額」については、公共施設マネジメントにより創出された土地の運用・売却額の進捗を踏まえ、予算補正による予算積立も実施していく。</p>	332億円
						【指標2】財源対策基金残高	44.0億円	→	40～45億円	46.7億円	残額を見据えた財政調整基金の活用(財政調整基金 積立額約5.1億円/取り崩し額4.2億円)			年度末残高 43億円
						【指標3】公共施設等総合管理基金への積立額	0.6億円	→	2.9億円以上/年	2.6億円	公共施設マネジメント創出土地の運用・売却収入の積立(約2.23億円) 予算積立の追加実施(0.35億円)			積立額 2.9億円/年
						【指標4】市民一人あたりの実質的な市債残高	166,462円/人	→	166,462円/人以下	147,681円/人	市債の繰上償還の実施(約6.1億円)			年度末残高 147,500円/人
	14	全庁的な庁内会議体の見直し	経営戦略課	<ul style="list-style-type: none"> 会議の性質(意思決定・課題解決・情報共有、報告など)により、開催方法や会議時間、開催頻度など、それぞれの会議体を有効に機能させ、効率的な運営を行う 内容、参加者が重複する会議体は集約し、会議体自体の見直しも合わせて行う 	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度末までに、要綱・規則等で規定のある庁内会議の開催の目的、頻度、参加者等を整理し、会議体の統合なども含め見直しを行う 会議開催に際しては、その目的や規模など会議の性質に合わせ、Web会議を積極的に導入し、全員対面による形態からリモートでの参加を前提としたハイブリッド方式で実施する 会議自体の効率化やペーパーレス化により、会議開催に要する準備時間や経費を削減し、効率的な会議運営を図る(指標の設定は、会議体見直しと併せて設定する) 	【指標1】庁内会議の見直し状況	-	→	2023年度 100%	会議体主管課との協議 13会議/42会議	庁内会議体の現状把握のため、調査を実施(開催状況、会議目的、開催方法、資料の共有方法、発言状況など)	アンケート結果だけでは捕捉できなかった内容について確認を行う必要がある。 見直し方法を整理するため、アンケート回答内容の背景や経過、代替手段の可能性等を確認する必要がある。	アンケート結果をもとに、全ての会議体所管部署に対してをめぐりにヒアリングを実施する。(9月末) ・ヒアリング実施後、各会議体の見直し方法を整理する。	【指標1】100%
						【指標2】Web会議の実施割合(Webと対面のハイブリッド)	-	→	(仮) 75%	【指標2】41%	効率的な会議運営のため、Web会議への対応、ペーパーレス化、資料の事前配付等を進める必要がある。	会議の性質にもよるが、Teams等によるWeb会議の活用、資料データの事前配付など、効率的な運営方法を提案していく。	【指標2】49%	
	15	部長マネジメントの機能化と管理監督職のマネジメント力の向上	職員課 経営戦略課	<ul style="list-style-type: none"> 部長マネジメントを機能させ、部内の業務分担の適正化と業務量削減など業務改革、及び部局横断的な課題の解決に向けて、リーダーシップを発揮する 市重要施策の進捗状況に関し、行政の組織長としての結果責任・説明責任を果たす 管理監督職は、毎年度掲げる業績目標を意識し、常に一段上をめざす 	<ul style="list-style-type: none"> 【部長マネジメント】市重要施策の確実な推進と、課題の早期解決に向け、毎年度定める経営方針及び成果目標の達成状況を公表する(令和4年度:経営方針見直し、令和5年度:経営方針を市HPにて公表し、成果目標の達成状況は翌年度公表) 【管理監督職のマネジメント】人事考課(業績評価)において、管理監督職が掲げる業務目標に対し、110%以上の成果を達成する割合をめざし、職位に応じ係・課・部を運営する 	【指標1】経営方針の公表	-	→	2023年度 公表	公表済	経営方針の公表を経営会議で案内	各経営方針の記載内容について、調整・見直し等の方法や時期についてを検討が必要	次年度の作成依頼に向けて、記載事項や記載例をよりわかりやすいものに改善する。	【指標1】公表
						【指標2】業務目標に対する達成度110%以上の割合	2.79%	→	10%	6.25%	人事考課に関わる面談の機会に考課者において業績目標の進捗確認を実施した。	自己考課において110%以上の成果としない傾向がある	目標とする達成度を見据えて業務に取り組むよう、面談の機会を通して意識付けする。	【指標2】8.25%
	16	行政マネジメントシステムの機能向上とEBPMの推進	財政課 経営戦略課	<ul style="list-style-type: none"> 予算編成・予算執行・事業評価・事業見直しなど行政マネジメントサイクルの機能を発揮し、より効率的・効果的な市政運営をめざす 政策・事業目的を明確にした上で、合理的根拠に基づき立案するEBPMを推進する 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度以降は事業評価によりデータシートを検証する データシート作成には、各課保有データに加え、位置情報システム、統計データなど客観的な数値データを積極的に活用し事業立案を行う 各所属が作成したデータシートの全庁共有を図り、データシートの精度向上に努める 	【指標】客観的なデータに基づく事業立案数	17件	→	50件	35件	データシートの精度向上のため、見本となるデータシートをガールーン資料集にて庁内に共有することを開始した。	本年の研修アンケートにおいて役職が高くなればなるほどデータを客観的な根拠資料として使ったことがないという回答が増えている。その中でもデータの見方がわからないという回答が多いのも管理監督職である。「データというものを受け付けられない」というデータへの嫌悪感を払拭する取組が必要ではないでしょうか。	データや数字という客観的なものへの嫌悪感を払拭する必要がある。管理監督職を対象としたデータの読み方を学ぶ研修を検討する。	50件
						【指標】客観的なデータに基づく事業立案数	17件	→	50件	35件	基幹統計データ、位置情報システムデータの取得方法や、それらを利用した効果的なグラフ作成方法について、職員研修を実施した。	数値データの効果的な見せ方(適切な種類のグラフを活用するなど)について、技術向上が必要である。	統計データ、位置情報システムデータの取得方法、効果的なグラフ作成方法について、職員研修を実施	

外郭団体の点検・評価の仕組について

1 点検・評価の手法

令和4年1月に策定した「福知山市外郭団体への関与に係る指針（以下「市指針」という。）」を踏まえ、各団体が定めた「中期経営計画」に基づく取組状況の点検・評価を下記のとおり実施します。

(1) 一次評価（各団体）

各団体は独立した事業主体であり、団体個々で責任をもって法人運営や事業活動を行い、自ら経営改善に取り組むことが求められます。

よって、中期経営計画で定めた取組項目ごとに、団体自身が自己点検・評価を毎年度実施します。

(2) 二次評価（市所管課）

市は、各団体の出資者（または設立者）として、事業や経営状況、組織体制について点検・評価し、設立目的の達成状況や経営状態について、適宜、指導及び助言を行う必要があります。

よって、一次評価を踏まえ、所管部署による評価を毎年度実施します。

(3) 三次評価（外部有識者）

外郭団体の経営改善や組織体制強化等の取組を、より効果的に進めるには、外部の視点で専門的な観点からの評価及び助言等が求められます。

よって、外部の専門家を交えた点検・評価は原則として中期経営計画の実施期間中2度実施します。（取組3年目の中間評価と計画終了後の総括評価）

中期経営計画	一次・二次評価	三次評価
取組1年目		
取組2年目	○（1年目の取組評価）	
取組3年目	○（2年目の取組評価）	●中間評価
取組4年目	○（3年目の取組評価）	
取組5年目	○（4年目の取組評価）	
次計画1年目	○（5年目の取組評価）	●総括評価
次計画2年目	○（次計画1年目評価）	
次計画3年目	○（次計画2年目評価）	●次計画の中間評価

2 点検・評価における基本的な考え方

点検・評価に際しては、外郭団体の設立趣旨の達成及び自主的かつ自立的な団体運営の推進に向け、市指針で示す以下の視点により検証を行います。

なお、市指針において、市としての関与のあり方を「外郭団体の位置づけを外す」と方向づけた団体についても、外郭団体として存続する期間は継続して、点検・評価を実施します。

(1) 合目的性（市が関与する必要性）

各団体の活動が、設立趣旨の達成に向けて「市行政を補完又は代替する公共サービスの担い手」となっているかという点で、各団体の設立目的の達成状況や実施事業の必要性、そして事業成果について検証します。

団体の設立目的が既に達成されている場合や、団体の活動成果を定性的・定量的に測定できない場合は、市の関与のあり方について検討します。

(2) 採算性（事業の採算性や財務リスク）

各団体の実施事業が効率的・効果的に実施されているかに加え、独立した事業主体として自主事業など独自活動実施のための財源確保に取り組んでいるかなど、団体の財務状況や市への財政依存度について検証します。

(3) 事業性（事業の将来性や民間事業者の代替可能性）

各団体が実施している事業が、市民ニーズと合致し市民サービスの向上へつながっているのか、各団体の活動継続に向け組織体制が整備されているかなどについて、事業の必要性や継続可能性について検証します。

なお、団体の主たる事業が他の民間事業者等で代替できる場合には、市の関与のあり方について検討します。

(4) その他（上記以外で団体又は市所管課が抱える課題等）

市指針において、各団体及び市が抱える課題等について、解決に向けた取組内容や進捗状況について検証します。

3 対象団体及び点検・評価の体制等について

(1) 対象団体(5 団体)

(R5. 8. 1 時点)

No	法人区分	団体名	出資等比率	市所管課
1	公益財団法人	福知山市都市緑化協会	100.0%	都市・交通課
2	一般財団法人	福知山市スポーツ協会	75.0%	文化・スポーツ振興課
3	公益社団法人	福知山市文化協会	75.0%	文化・スポーツ振興課
4	株式会社	福知山上下水道 サービスセンター	66.7%	経営総務課 資産活用課
5	有限会社	やくの農業振興団	37.1%	農林業振興課

(2) 点検・評価の体制

①一次評価

提出時期：取組翌年度5月末までに点検・評価結果を市所管課へ提出
評価体制：団体による自己評価

②二次評価

評価時期：各団体から提出後1か月以内（6月末まで）に実施し、二次評価結果と併せて市HPにて公表
評価体制：市所管課で実施

③三次評価

評価時期：実施年の7月頃（予定）

評価体制：4～5名（※）

その他：①1団体75分

②二次評価内容（取組・成果）説明（10分）、質疑（55分）、まとめ（10分）

【評価体制（※）】Coはコーディネータの略

	候補者属性	役割
Co	外郭団体の経営健全化、先進的な団体活動等に精通している者	進行及び議論の整理、意見集約
委員	公共政策、自治体経営の専門家	合目的性の検証
	会計、監査の専門家（公認会計士等） 企業など団体経営者	採算性、事業性の検証
	福知山市行政改革推進委員	市指針との整合性

4 点検・評価の結果を踏まえた対応

必要に応じて、市長より各団体に改善意見を提示します。

施策レビューのふりかえり（素案）

1 実施時間について

- ・施策説明者や事務局の感覚では時間は非常に短く感じられたが、施策改善市民パートナー（以下「市民パートナー」という）からは「議論の時間は適切であった」、「全体的に適切な時間配分だった」と回答した人が最も多かった。
- ・しかし、市民パートナーのなかには、休憩時間中に担当課や施策改善推進委員に質問する人もおり、施策の有効性を判断する上で十分な時間を確保できなかったことも考えられる。
- ・また、議論前の説明が多いとの意見もあり、進行手順や時間配分についても改めて検討する必要がある。

2 資料について

- ・一般の市民パートナーのアンケート結果から、「資料の量が多かった」という意見が76%であった。

※高校生は「資料の量が多かった」は38%、「適量であった」が58%であったが、施策単位での参画であったため、概ね1日単位で参加した一般の市民パートナーと比較して、読み込む資料の量が少なかったことが要因と思われる。

- ・施策担当部・課としては、施策改善推進委員から頂く多角的な意見・質問に対応するため、より多種多様な資料を準備する必要があるが、施策体系シートの記載内容の精度を上げることによって補足資料を少なくすることに努めたい。

3 担当課の対応について

- ・事前準備として、コーディネーターと施策担当課との論点整理、コーディネーターと施策改善推進委員との論点整理内容の共有等を行い、施策をより良くするための議論が展開されるよう努めたが、いくつかの施策においては、質疑に対する回答が的を射ないものや質問の趣旨を理解できぬまま回答を続けるものもあり、議論が円滑に進まないものもあった。特に、課題認識の明確な根拠の説明を求められたが、回答できないものや不明瞭な回答もあった。
- ・改めて、施策を意識した事務事業の執行の徹底やデータを意識した合理的根拠に基づく説明ができるように及びデータ等の根拠に基づいた課題設定及び取組の方向性の設定を確認する必要があるとともに、施策を意識した事務事業への取組を徹底することにより、わかりやすい施策説明に努める必要がある。

4 議論前の説明について

- ・当日の事務局の説明内容としては、基本政策の説明、政策目標及び成果指標、施策の概要及び成果指標の説明を行った。説明内容については、事前に施策担当部・課と共有していたが、その後の施策担当部・課からの施策の概要説明において内

容が重複するものもあったため、施策概要は担当部・課からの説明とすることで説明時間の短縮に努めたい。

5 市民パートナーの参加について

- ・アンケート結果から「参加してみてよかった」と回答した市民パートナーは一般、高校生とも80%以上（一般83%、高校生85%）であったが、実施時間や説明資料、施策担当部・課の説明内容の見直しを行い、より良い取組となるよう努めたい。
- ・また、一般の市民パートナーを対象とした事前説明会には28人(全体の68%)の参加があり、施策レビューに対する真剣度が伺えたが、当日意見を言えないことへの不満が数人からあり、アンケートにも同意見があった。市民パートナーの発言の機会をあらかじめ設定するかどうかについても改めて検討する必要がある。
- ・今回から高校生に参加いただき、一般の市民パートナーとは異なる視点からの意見を頂き、新たな気づきのきっかけともなった。次回以降の参加も是非お願いしたいところであるが、施策改善推進委員から大学生の参加を求める意見も頂いたため、全体の参加者のバランスや運営上の課題を整理した上で、大学生の参加についても検証したい。